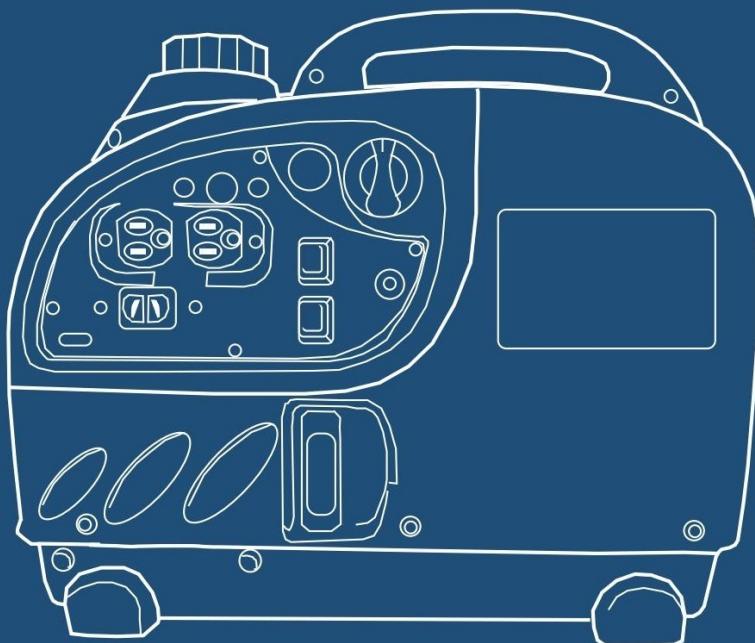




発電機 JPG900 取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

おねがい

(株)ジェーピージェネレーターズの発電機をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法および簡単な点検・調整について説明しています。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。

あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を充分に發揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なお、ご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では、正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全に係る注意情報を意味しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお、本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付してください。

目次

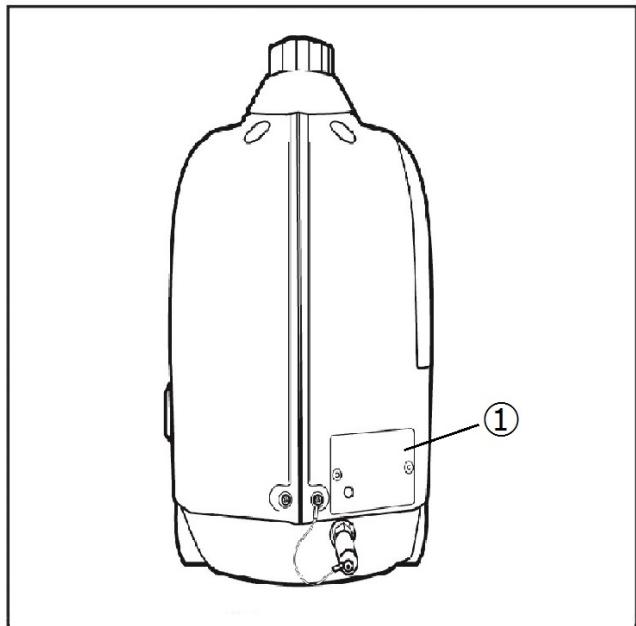
おねがい	表紙裏 (表 2)
本体識別番号	P1
● 本体識別番号	P1
お客様窓口のご案内	P2
安全にお使いいただくために	
お守りください	P3
▲ 警告	P3
▲ 注意	P4
環境への配慮	P4
重要ラベル	P5
各部の名称	P6
各部の取り扱い	P8
● オイル警告装置	P8
● エンジンスイッチ	P8
● エコノミースイッチ	P9
● 周波数切替スイッチ	P9
● オイル警告ランプ (赤色)	P10
● 過負荷警告ランプ (赤色)	P10
● 出力表示ランプ (緑色)	P11
● 燃料コック	P11
● チョークノブ	P11
● 直流プロテクタ	P12
● アース端子	P12
● リコイルスタートハンドル	P13
● 携帯工具	P13
給油	P14
● 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の給油	P14
● エンジンオイルの給油	P16
正しい運転操作	P18
● エンジンの始動	P18
● エンジンの停止	P21
● 交流電源の取りだし方	P22
● 直流電源の取りだし方 (12V バッテリ充電専用)	P23
● 交流電源の使用可能範囲	P25
● 直流電源 (12V バッテリ充電 専用) の使用可能範囲	P26
始業点検	P27
● 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の点検	P27
● エンジンオイルの点検	P28
点検	P30
定期運転・定期交換	P32
定期点検・整備ご相談窓口のご案内	P33
点検・調整	P34
● エンジンオイルの交換	P34
● スパークプラグの点検と清掃	P37
● エアクリーナエレメントの清掃	P40
● マフラワイヤネットの清掃	P42
故障診断	P43
● エンジンが始動しない	P43
● 電気が出ない	P43
運搬	P44
保管・格納	P45
● 保管	P45
● 格納	P47
仕様諸元	P49

本体識別番号

1

● 本体識別番号

商品名、本体識別番号（識別番号ラベル①）などは問い合わせや部品を注文するときのために記入しておいてください。
万一の盗難のために商品名、識別番号は他の資料にも記録しておいてください。



商品名記入欄

識別番号記入欄

購入年月日記入欄

 年 月 日

購入先記入欄

電話

お客様窓口のご案内

2

お買いあげいただきました商品についてのお問い合わせは下記へお願ひいたします。

株式会社ジェーピージェネレーターズ
カスタマー コミュニケーション センター
〒203-0043 東京都東久留米市下里3-11-9

042-471-1692

受付時間 月曜～金曜
(祝日、弊社所定の休日等を除く)

9:00～12:00 13:00～18:00

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談ください。

- ① モデル名
- ② 製造番号（本体識別番号）
- ③ ご購入年月日

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項のすべてに習熟してからご使用ください。

⚠ 警 告

(行為を禁止する警告文)

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので、室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 商品の上にものを乗せて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- ヤケドや火災のおそれあり、使用中や使用直後はマフラー部が熱いので、マフラーやマフラー周辺のプロテクタに手足を直接触れたり、カバーを掛けたりしないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、濡れた手で商品を操作したり、雨や雪など水のかかる場所では使用しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠ 警 告

(行為を指示する警告文)

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、本機を建物や設備から 1 メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し、換気の良い場所で行ってください。

燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは充分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。

- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹼と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠ 注意 (行為を禁止する注意文)

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、エンジン部、マフラー部が充分に冷えるまで、発電機にカバーを掛けないでください。

⚠ 注意 (行為を指示する注意文)

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、燃料を抜いて倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店または(株)ジェーピージェネレーターズの点検を受けてください。

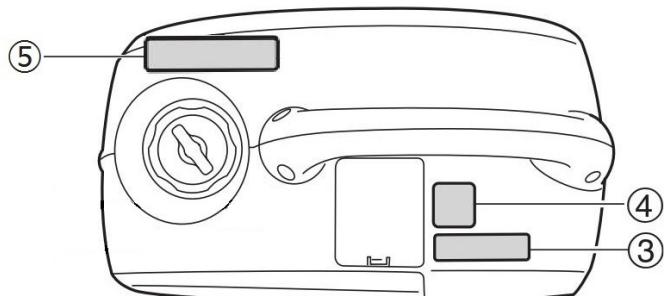
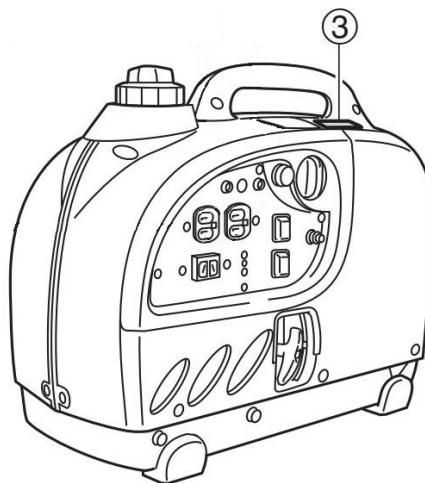
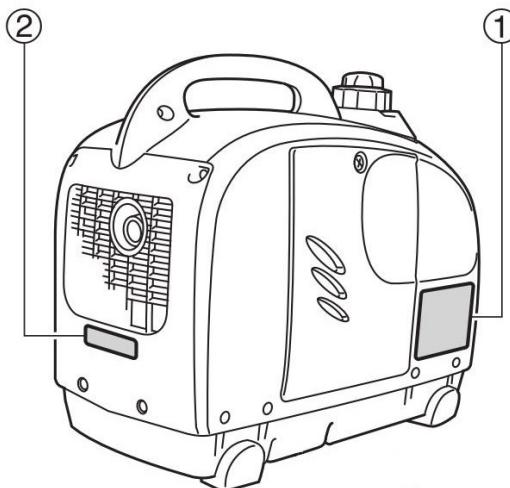
環境への配慮

将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のため、お買いあげの販売店または(株)ジェーピージェネレーターズにご相談ください。

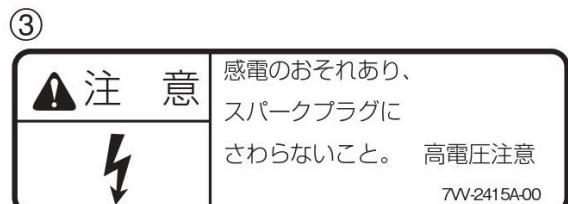
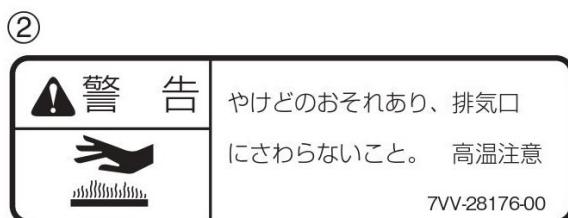
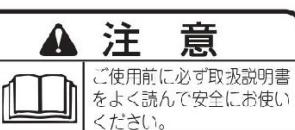
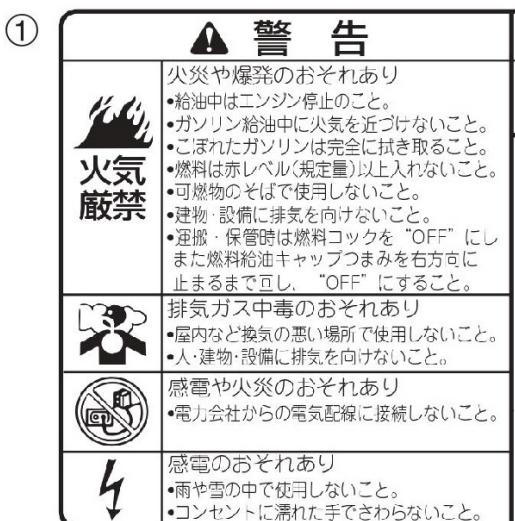
重要ラベル

5

商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

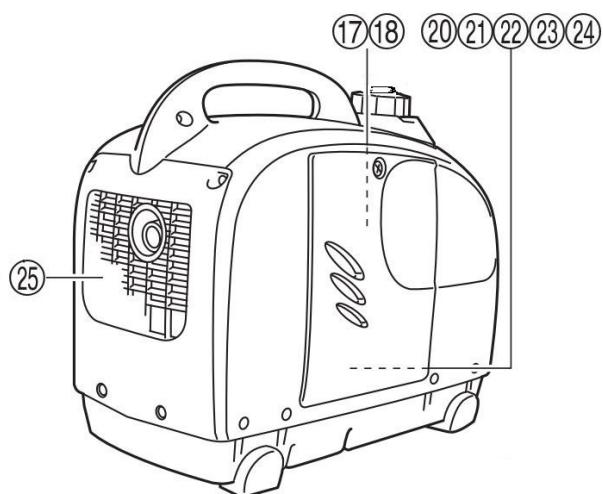
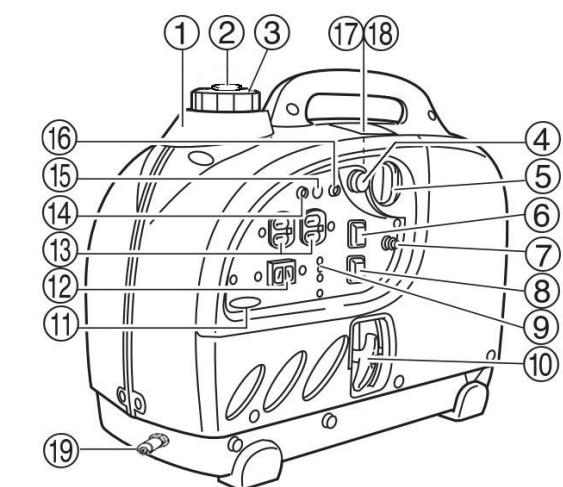


⚠ 警 告 ラベル

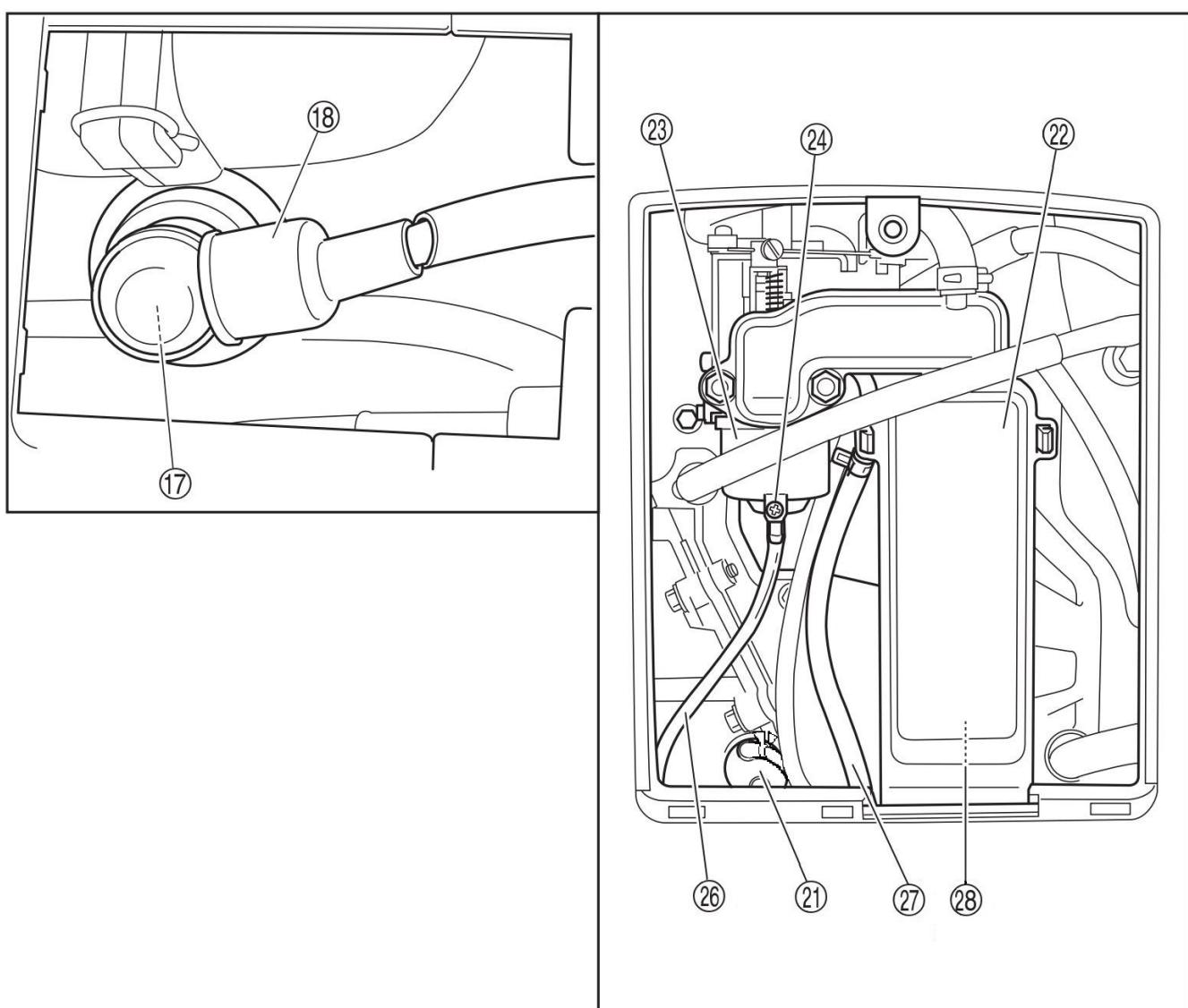


④「LEMA」ラベル (「排出ガス」自主規制適合マーク)





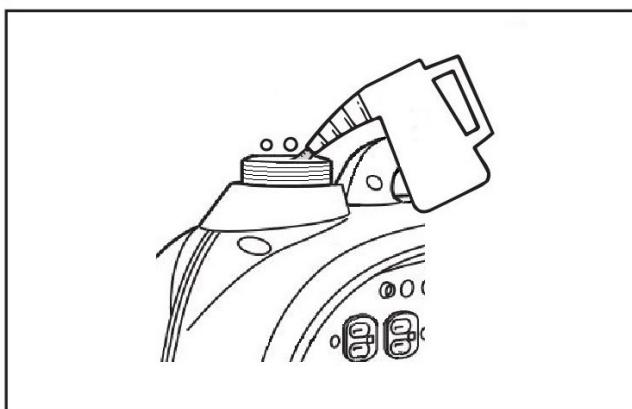
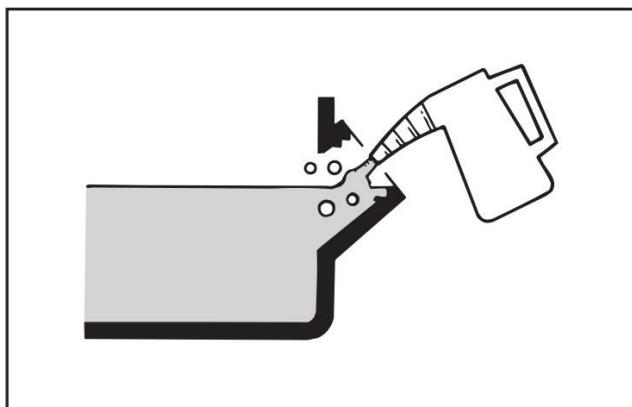
- ① エンジンオイルサブタンク(オイル注入口)
- ② オートインタークバルブ
- ③ エンジンオイルサブタンクキャップ
- ④ チョークノブ
- ⑤ 燃料コック
- ⑥ エンジンスイッチ
- ⑦ アース端子
- ⑧ エコノミースイッチ
- ⑨ 直流プロテクタ
- ⑩ リコイルスターターハンドル
- ⑪ 周波数切替スイッチ
- ⑫ 直流コンセント
- ⑬ 交流コンセント
- ⑭ 過負荷警告ランプ
- ⑮ 出力表示ランプ
- ⑯ オイル警告ランプ
- ⑰ スパークプラグ
- ⑱ スパークプラグキャップ
- ⑲ 燃料ホース接続口
- ⑳ オイル警告装置
- ㉑ メインエンジンオイルキャップ(オイル注入口)
- ㉒ エアクリーナ
- ㉓ キャブレタ
- ㉔ ドレンスクリュ
- ㉕ マフラ
- ㉖ ドレンパイプ
- ㉗ エアベントホース
- ㉘ エアクリーナエレメント



● オイル警告装置

エンジンオイル量が少なくなつて潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスターターハンドルを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認しエンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。



▲注意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

● エンジンスイッチ

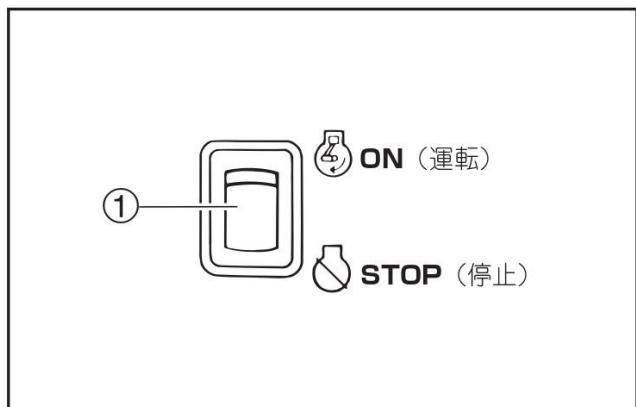
エンジンスイッチ ① は点火系統を制御しエンジンの運転、停止を行います。

ON (運転)

エンジン運転時の位置です。

STOP (停止)

エンジン停止および保管時の位置です。



▲注意

使用しないときは、エンジンスイッチをSTOP (停止) にしてください。

● エコノミースイッチ

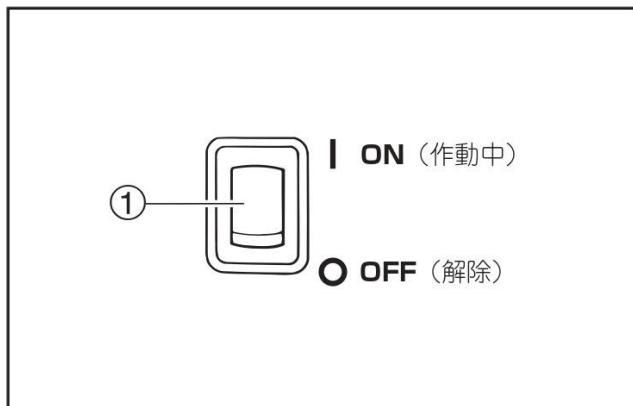
エコノミースイッチ①はエコノミーコントロール装置の作動・解除を行います。

ON (作動中)

エコノミースイッチ①をONにするとエコノミーコントロール装置が作動します。電気機器を運転すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転となり、運転しないときは自動的に低速回転になります。

OFF (解除)

エコノミースイッチ①をOFFにするとエコノミーコントロール装置が解除されます。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

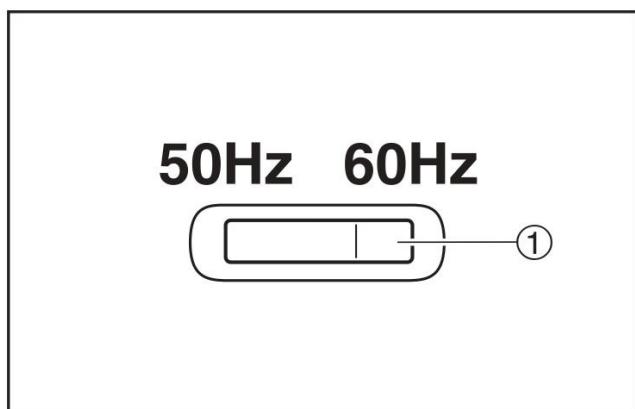


要点

コンプレッサ、投光機などの電気負荷が大きい場合は、エコノミースイッチをOFF(解除)の状態で使用してください。

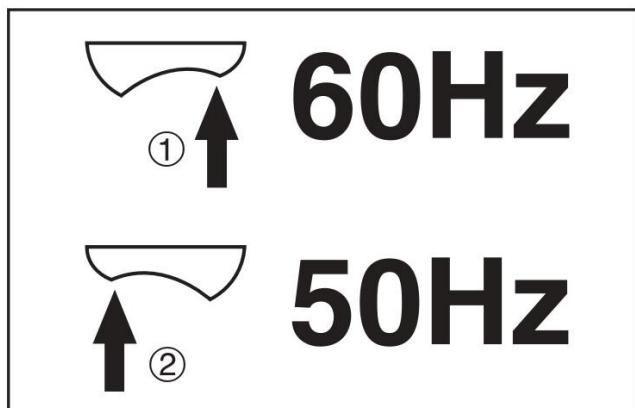
● 周波数切替スイッチ

周波数切替スイッチ①は利用する器具の周波数に合わせて周波数を50Hzか60Hzのいずれかに切替えるスイッチです。



60Hz仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの60Hz側①を押してください。

また、50Hz仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの50Hz側②を押してください。

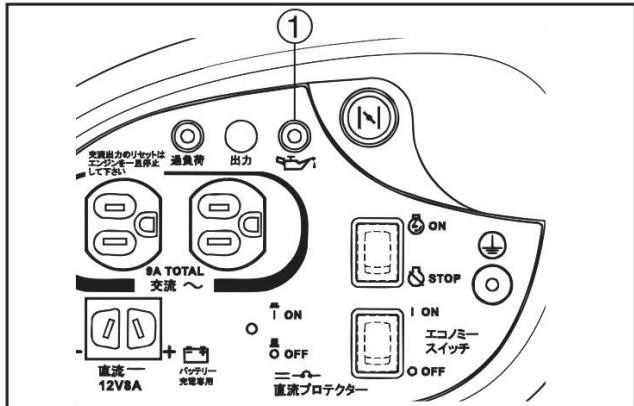


要点

- 工場出荷時、周波数切替スイッチは50Hzにセットされています。
- 周波数の切替はエンジン停止中に行ってください。
- 電気器具の周波数が不明の場合は、電気器具会社にご相談ください。

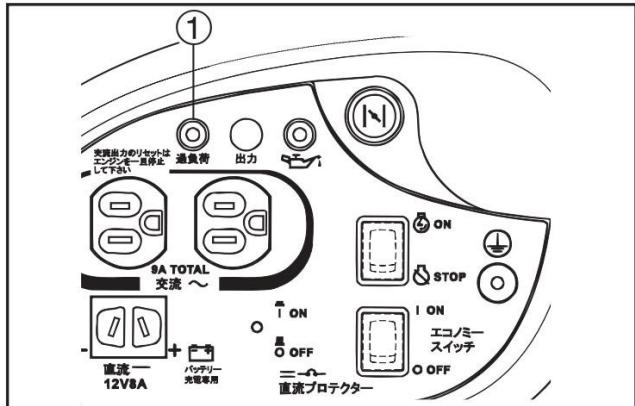
● オイル警告ランプ（赤色）

オイル警告ランプ（赤色）①は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ（赤色）①が点灯し、エンジンは始動しません。



● 過負荷警告ランプ（赤色）

過負荷警告ランプ（赤色）①は接続された電気機器から定格出力を超える電気を要求されたときに点灯します。発電機は電気の供給を遮断しますがエンジンは停止しません。

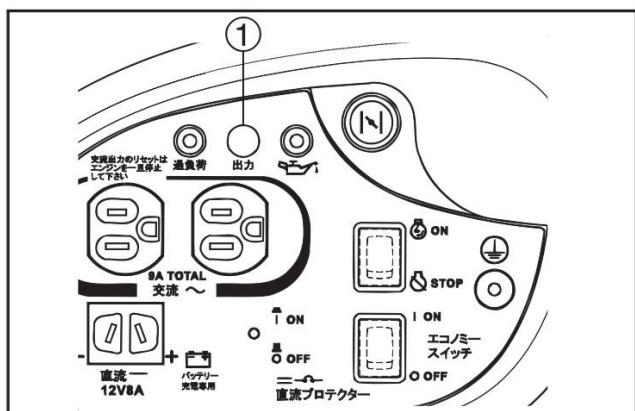


要 点

発電を再開する場合は一度エンジンを停止し、再度エンジンを始動してください。なお、過負荷警告ランプ（赤色）は自動的に消灯します。

● 出力表示ランプ（緑色）

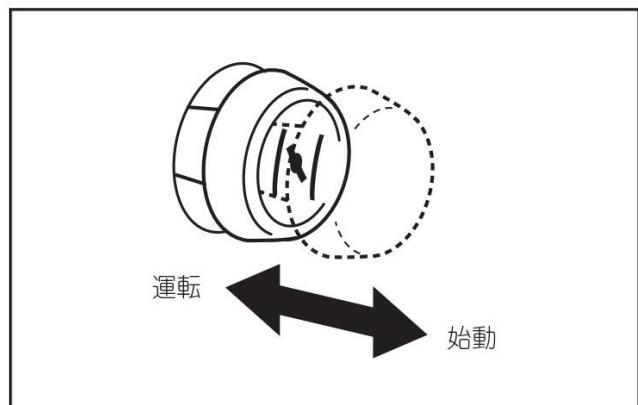
出力表示ランプ（緑色）①はエンジン始動後、発電が始まると点灯します。



● チョークノブ

始動 エンジンが冷えている状態で始動させるときのノブの位置です。

運転 エンジンを運転するときや、エンジンが暖まっている状態で始動させるときのノブの位置です。



● 燃料コック

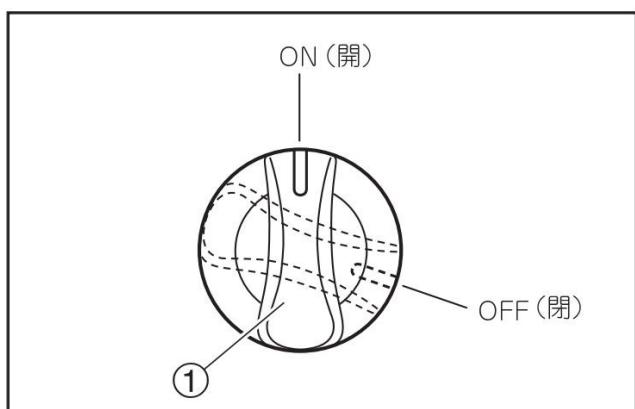
燃料コック ①は燃料の流れを制御します。

ON (開) 燃料は流れます。

始動および運転時の位置です。

OFF (閉) 燃料は流れません。

停止および保管時の位置です。



● 直流プロテクタ

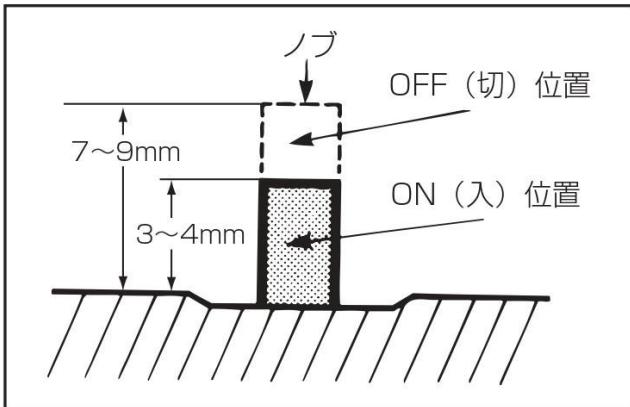
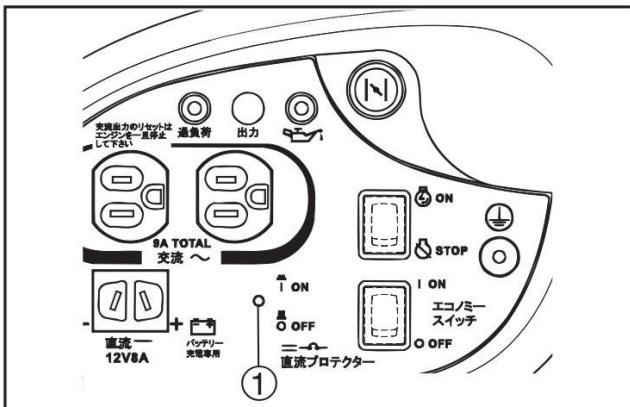
- ON (入) 直流が取り出せます。
(通常はこの位置になっています。)
- OFF (切) 直流が取り出せません。

▲注 意

- 直流プロテクタ①が ON (入) のときはノブを押さないでください。
- 直流プロテクタ①が OFF (切) になる場合は、バッテリ容量・放電状態を発電機の指定バッテリ容量以内に減らしてください。それでも OFF (切) になる場合は（株）ジェーピージェネレーターズに相談してください。

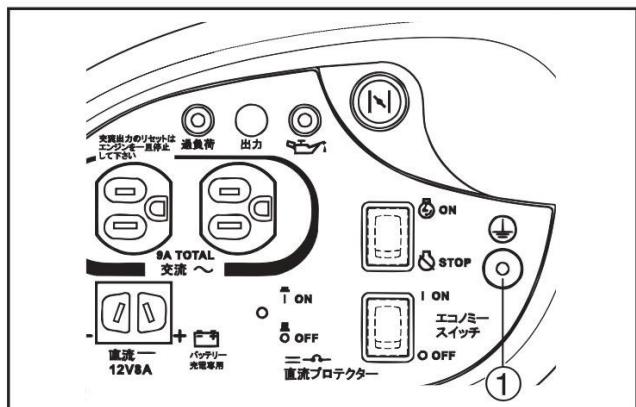
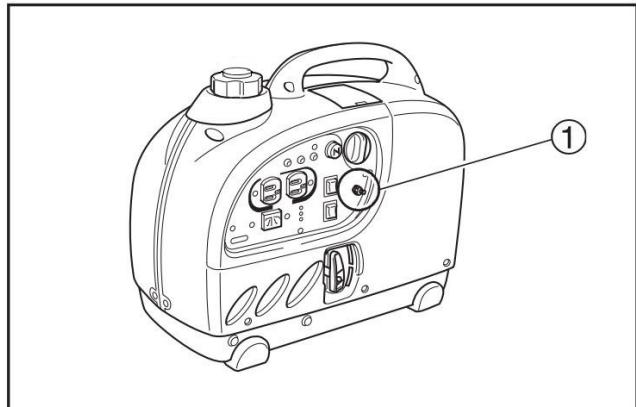
要 点

12V バッテリ充電中に定格以上の電流が流れると自動的に OFF (切) になります。再度使用する場合はノブを押し込んで ON (入) にしてください。



● アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子①です。

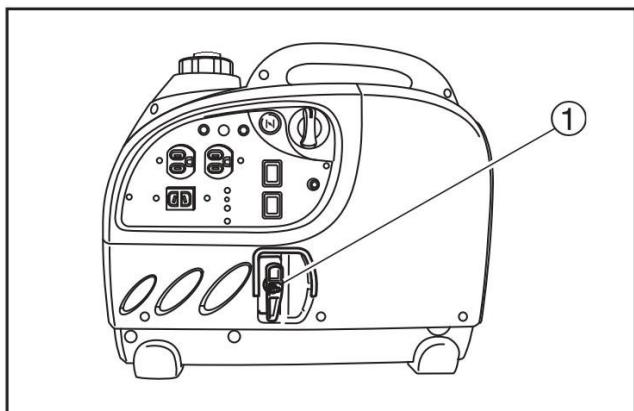


要 点

アース端子①から地面にアースしてください。

- リコイルスタータハンドル

リコイルスタータハンドル①はエンジンを始動させるときに使用します。



- 携帯工具

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料専用キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れことがあります。
- 補給後、キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。
- 初期使用時やガス欠時は、レベル（給油限界位置）の位置まで給油してください。燃料補給が十分でない場合、エンジンを始動できないことがあります。

△警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
- 本機や給油機などの金属部分に手を触ると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

⚠ 警告

点検は平坦な場所で水平にし行ってください。

燃料タンクの点検

使用前は満タンになっているか確認してください。

給油した際は、専用キャップをしっかり閉めてください。

また使用前もキャップの閉まり具合を再確認してください。



給油の際、ご注意ください

ガソリンを購入する際には下記の提示・記入が必要となります。

- ①本人確認(運転免許証の提示など)
- ②使用目的の確認

燃料タンクを開ける場合は次の注意事項に留意して、取り扱ってください。

- ・周囲の安全を確認
- ・専用キャップを開ける前に、排気バルブを緩める

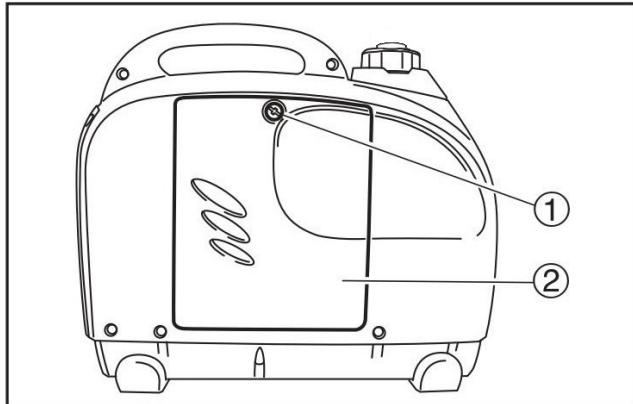
セルフスタンドにおいても、ガソリンの容器への詰め替えは、ガソリンスタンドの従業員が行う必要があります。

- エンジンオイルの給油(メインタンク)

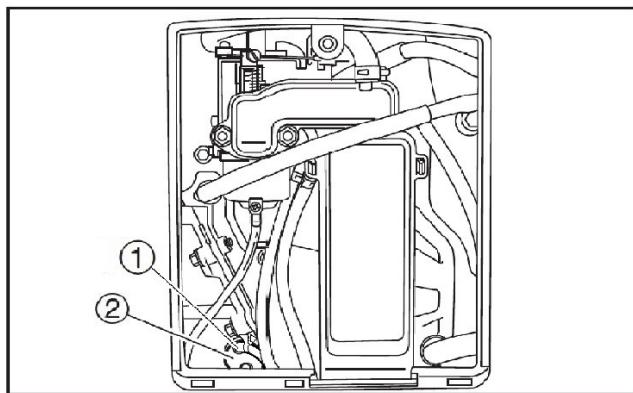
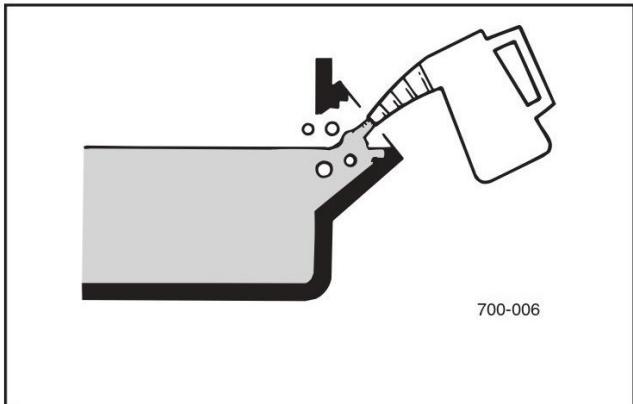
▲注 意

- 工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。
- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。
エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

ボルト①を弛めて、カバー②を取り外します。



チューブ①を外してから
オイルプラグ②を外します。



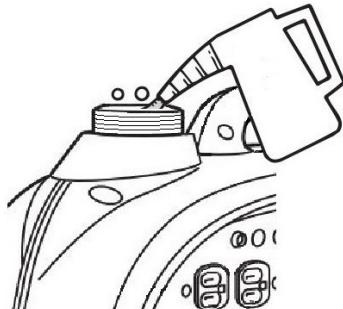
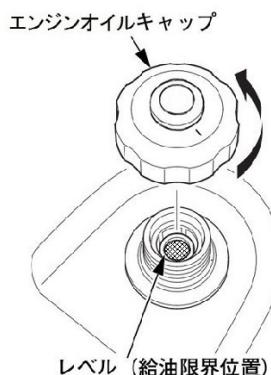
オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。
カバーを取り付けます。

エンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。

● エンジンオイルサブタンクの給油

▲注 意

エンジンオイルキャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）まであることを確認します。少ない場合は補充します。



推奨オイル：JPG ZERO

4ストロークガソリンエンジンオイル
(SAE10W-30 もしくは10W-40
API分類SE級以上)

エンジンオイル規定量：

メインオイルタンク：320mL
サブオイルタンク：620mL

要 点

- エンジンオイルを交換するときは、「● エンジンオイルの交換」(P34) を参照してください。
- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

- エンジンの始動

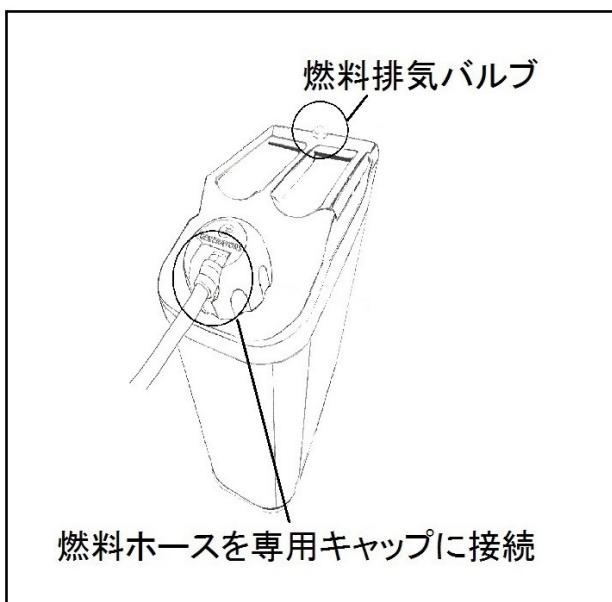
▲警 告

換気や風通しが不充分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

▲注 意

- 新規購入後の1回目は、燃料タンクに燃料を給油しても、自動的にすべての始動系統には燃料が供給されません。そのため、エンジンが始動するまでに約10回リコイルスタートハンドルを引く必要がある場合があります。
- エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- エンジンを始動する前に周波数切替スイッチの周波数と接続する電気器具の周波数が同じであるか確認してください。

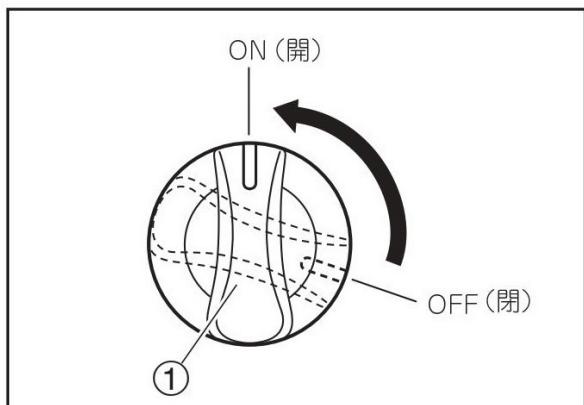
- 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。
- 19.5L燃料タンクの排気バルブを緩め、燃料ホースを専用キャップに接続します。



- 燃料ホースを発電機に接続します。



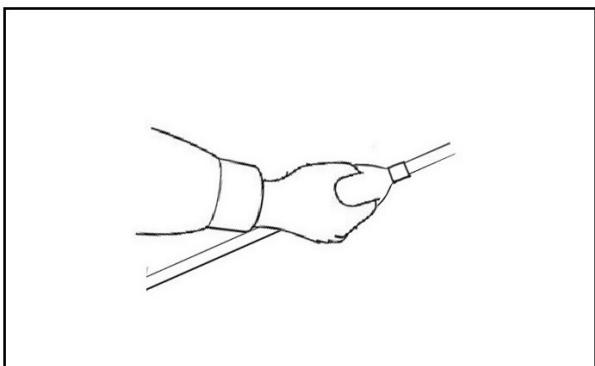
- 燃料コック①をON（開）にします。



5. 燃料ホースのポンプを硬く感じるまで押します。

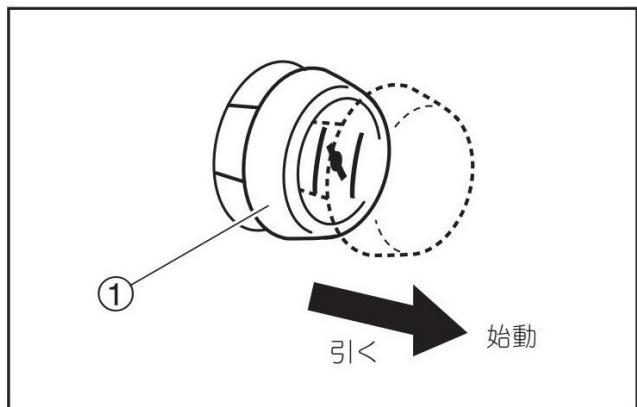
初回始動時は6回、
以降始動時は2~3回を目安に押します。

※押し続けるとエンジン本体のエアーベントホースから燃料がオーバーフローするので注意

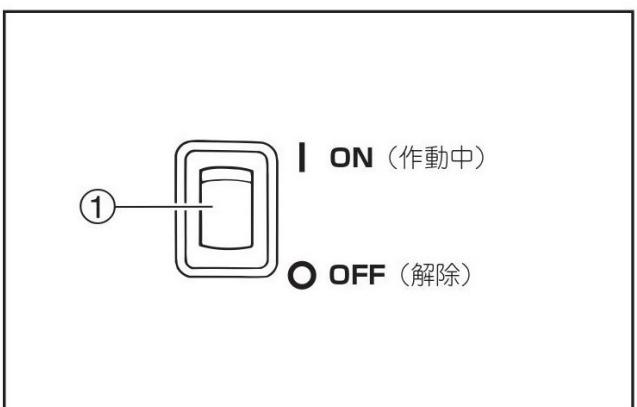


6. チョークノブ①を始動にします。

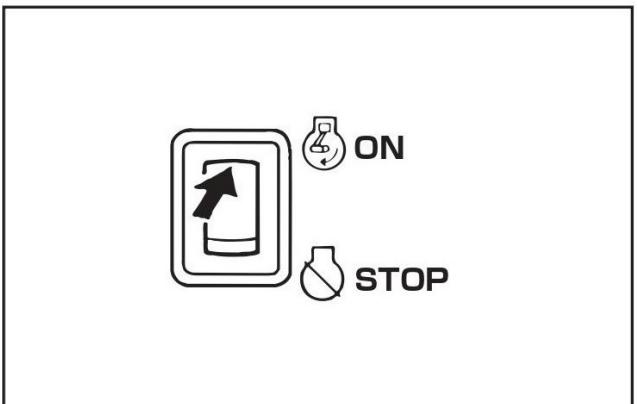
なお、エンジンが暖まっているときは、チョークノブを始動にする必要はありません。



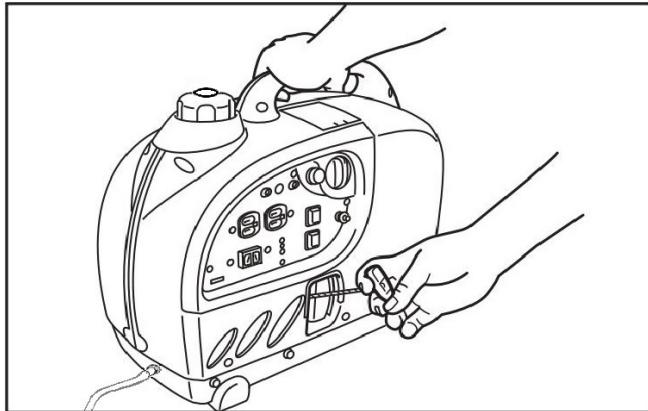
7. エコノミースイッチ①をOFF(解除)にします。



8. エンジンスイッチをON(運転)にします。



9. リコイルスタータハンドルを軽く引き出します。リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを始動させます。



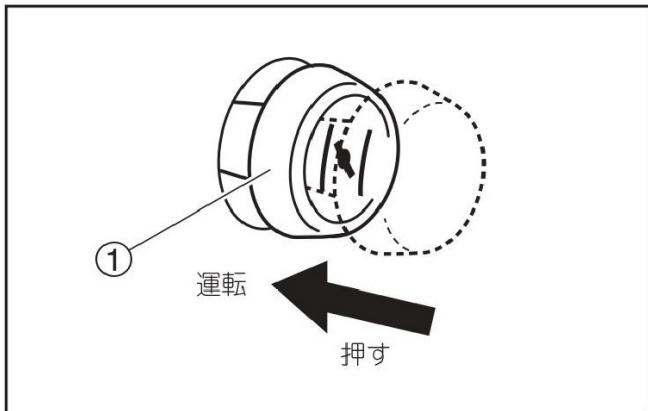
▲注意

- リコイルスタータハンドルを引くときは発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。
- リコイルスタータハンドルを戻すときはゆっくりと戻してください。

要点

リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しないときは、チョークノブを元に戻してリコイルスタータハンドルを引いてください。

10. エンジン回転数が安定したらチョークノブ①を運転にします。



要点

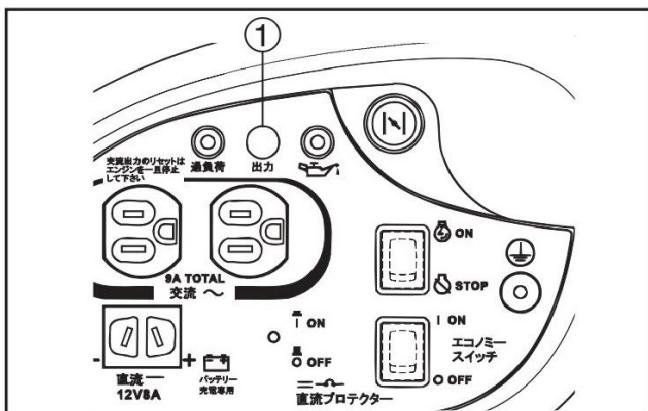
暖機運転が不充分な状態でチョークノブを戻すと、エンジンが停止することがあります。

11. しばらく暖機運転します。

要点

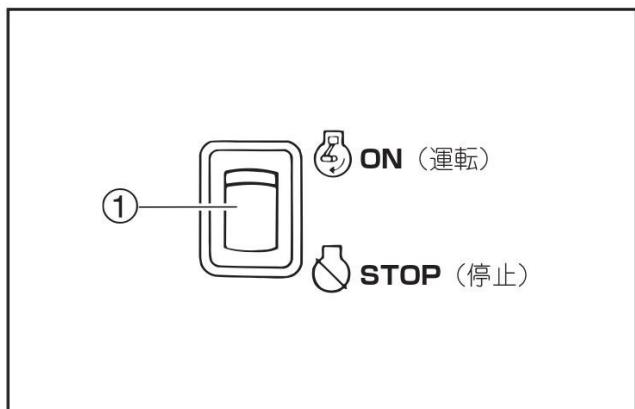
気温が 3°C 以下の場合、エコノミースイッチが ON (作動中) でも自動的に約 5 分間 5000r/min で暖機運転し、気温が 3°C 以上の場合は約 3 分間 4000r/min で暖機運転します。その後自動的に低速運転に切り替わります。

12. 出力表示ランプ（緑色）①が点灯していることを確認します。

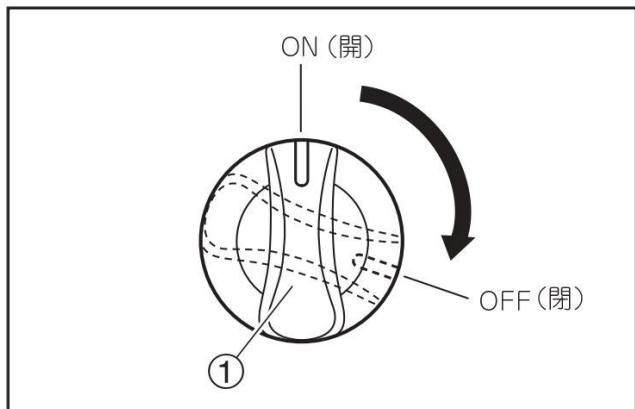


● エンジンの停止

1. 電気器具のスイッチを OFF (切) にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
3. エンジンスイッチ①を STOP (停止) にします。

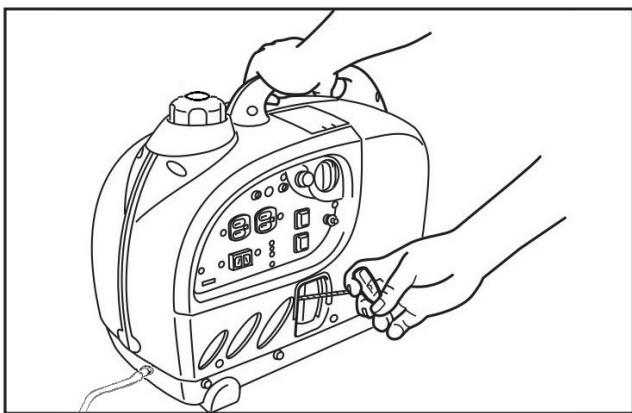


4. 燃料コック①を OFF (閉) にします。

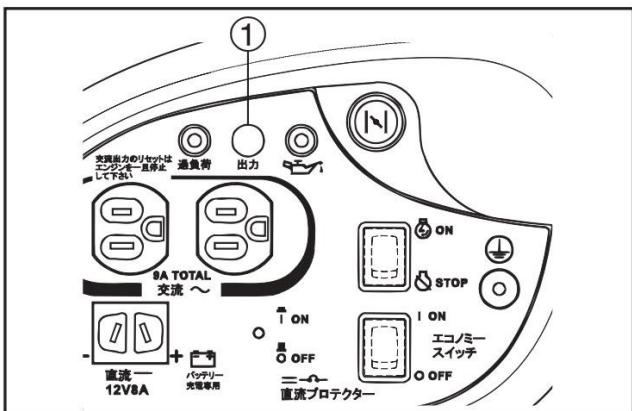


●交流電源の取りだし方

- エンジンを始動します。

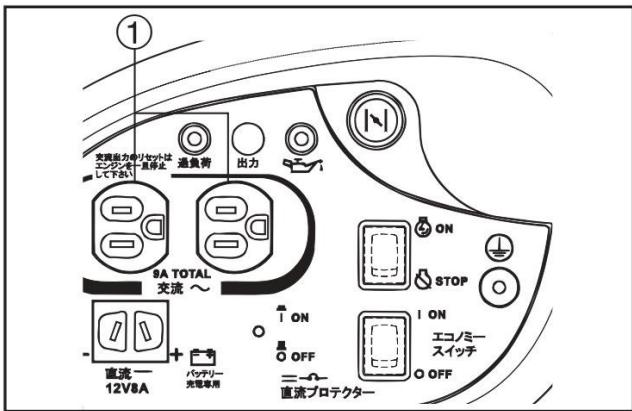


- 出力表示ランプ（緑色）①が点灯していることを確認します。



- 電気器具のプラグを交流コンセント①に差し込みます。

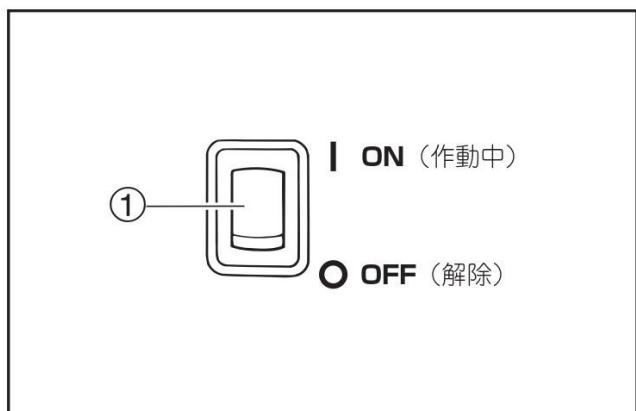
2口合計消費電流 9A



要 点

電気器具のスイッチが OFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

- エコノミースイッチ①を ON（作動中）にします。



正しい運転操作（つづき）

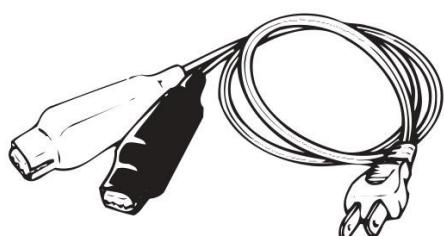
23

- 直流電源の取りだし方（12V バッテリ充電専用）

▲注意

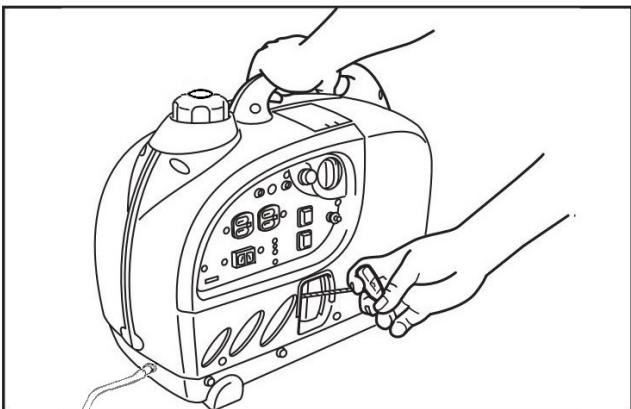
- 直流（DC）と交流（AC）を同時に取り出す場合の交流（AC）の器具の電力は次の範囲を守ってください。
60Hz—800Wまで
50Hz—800Wまで
- 充電時間はバッテリ液の比重によって異なります。

チャージコードアッセンブリは有料で販売しています。

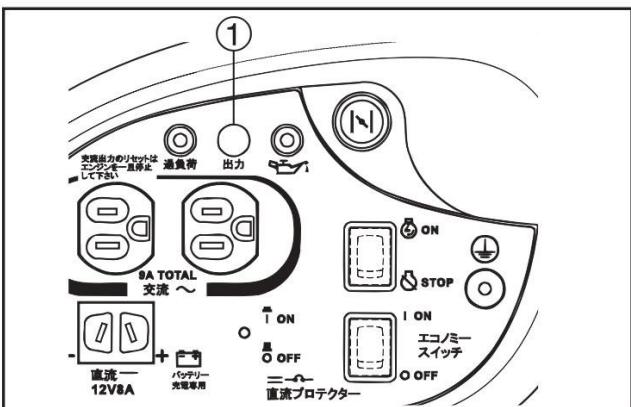


チャージコードアッセンブリ

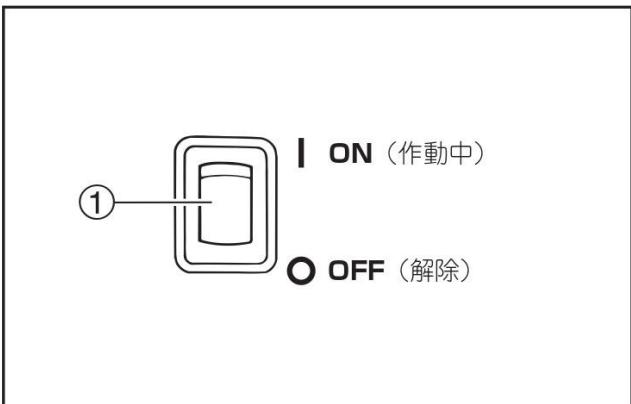
1. エンジンを始動します。



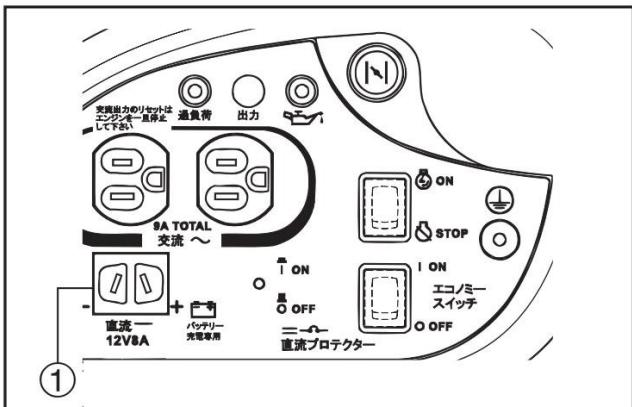
2. 出力表示ランプ（緑色）①が点灯していることを確認します。



3. エコノミースイッチ①を OFF（解除）にします。



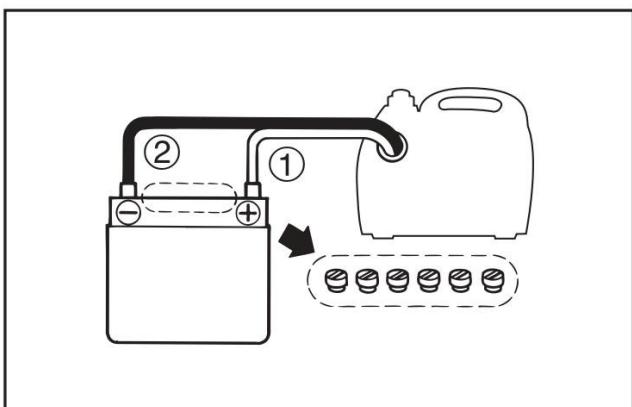
4. チャージコードアッセンブリのプラグを直流コンセント①に差し込みます。



▲注 意

- バッテリへの接続は必ず同梱されているチャージコードアッセンブリを使用してください。
- チャージコードアッセンブリの取り外しはエンジン停止後、取り付けの逆順で行ってください。

5. チャージコードアッセンブリの赤色端子①をバッテリの \oplus 端子に接続します。
6. チャージコードアッセンブリの黒色端子②をバッテリの \ominus 端子に接続します。



▲注 意

- 満充電になるための充電時間はバッテリの種類、放電状態（比重）によって異なります。
- 詳細は充電するバッテリの説明書を熟読してください。

▲警 告

バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、けがをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しの良いところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリ液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリ液が皮膚、衣服などに付いたときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

● 交流電源の使用可能範囲

交流電源は電気器具ごとに、おおむね下表の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力 (W) をお確かめの上、ご使用ください。

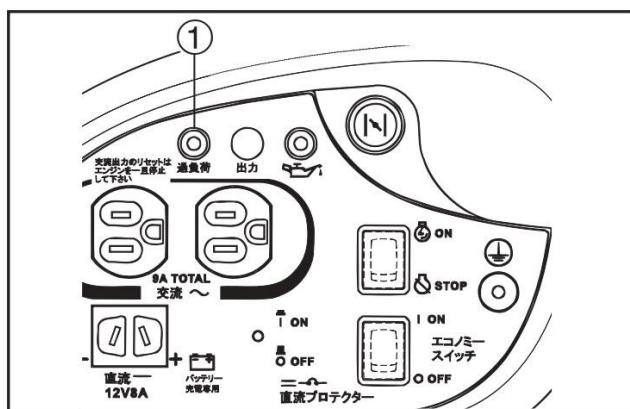
電気器具	取り出し可能範囲	備 考
	TG900i-72H	
	50Hz・60Hz	
照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	100V 900Wまで	力率=1
電動工具類	100V 680W程度まで	力率=0.8~0.95
汎用モーター類	100V 400W程度まで	力率=0.4~0.75

▲注 意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。
- 医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
- 電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。

要 点

- 取り出し可能範囲を超えた場合、または電気器具に異常があった場合は、電気の供給が遮断されます。
- 過負荷警告ランプ（赤色）①は、接続された電気器具に定格出力を超える電気が供給されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。
- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。



- **直流電源（12V バッテリ充電専用）の使用可能範囲**

直流電源は 40AH、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリを充電できるように作られていますので、これよりも容量の小さいバッテリを充電してください。

12V バッテリ

バッテリの補充電は、バッテリの放電状態によって充電時間が異なります。バッテリの比重が 1.26 ~ 1.28 になると充電完了となりますので、1 時間おきに比重をチェックしてください。

40AH のバッテリの場合、1/2（ハーフ）放電状態から約 5 時間でほぼ良好な状態となります。

なお、バッテリの充電は、必ずバッテリの液量を確認してから行ってください。

▲注 意

- バッテリ充電中にバッテリから電気を取ったり、バッテリ充電中に車のスタータモーターを回すなどしないでください。大電流が流れ、発電機ジェネレータ部分のコイル焼けの原因となります。
 - 密閉式バッテリには専用の充電器が必要です。密閉式バッテリは接続しないでください。
-

要 点

エコノミースイッチは OFF（解除）にしてください。

● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検

燃料排気バルブ①を左方向に弛めます。

専用キャップ②を弛めます。



要点

燃料排気バルブは燃料タンク内と外気との通路を開閉する装置です。

発電機を運転する前に弛め（通路を開く）、運転を終了した後に締め付け（通路を閉じる）ます。

燃料タンクキャップを外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。

使用燃料：無鉛ガソリン
(自動車用レギュラーガソリン)

燃料タンク容量：19.5L

▲注意

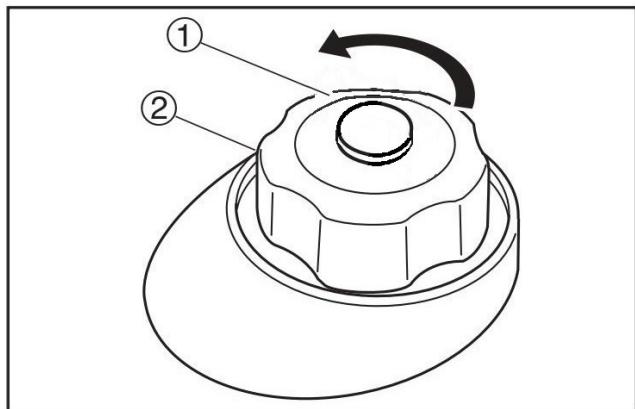
- 専用キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることができます。
- 補給後、キャップを確実に締め付けてください。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。
- ガソリンは自然劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。
- 初期使用時やガス欠時は、レベル（給油限界）の位置まで給油してください。燃料補給が十分でない場合、エンジンを始動できないことがあります。

▲注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 燃料は規定量以上給油しないでください。
- 燃料タンクを連結して使用する際は、各々のタンク内にある燃料を同量にしてご使用ください。

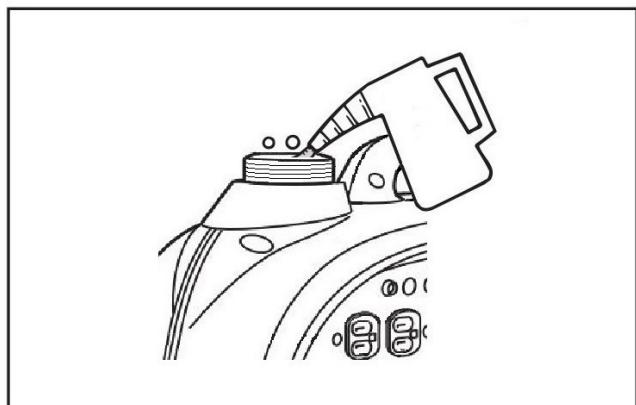
- エンジンオイル(サブタンク)の点検

エンジンオイルキャップつまみ①は自動で吸気する仕組みになっているので弛める必要はありません。
エンジンオイルキャップ②を弛めます。



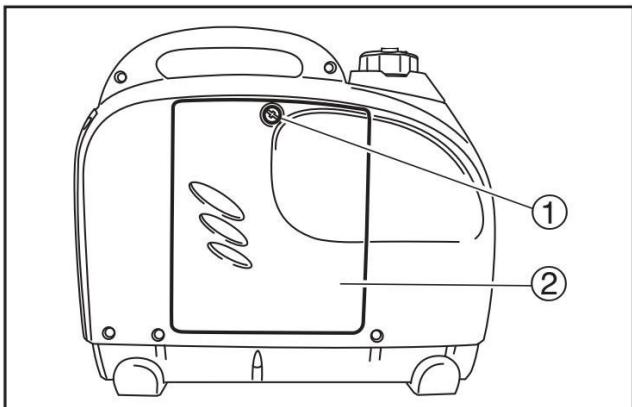
▲注意

- エンジンオイルの給油時、タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。
また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- エンジンオイルは規定量以上給油しないでください。

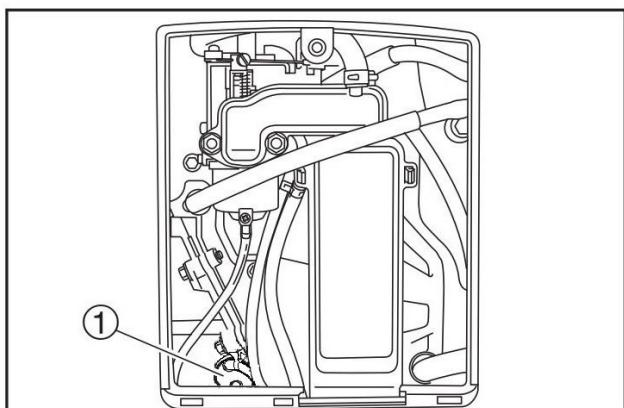


● エンジンオイル(メインタンク)の点検

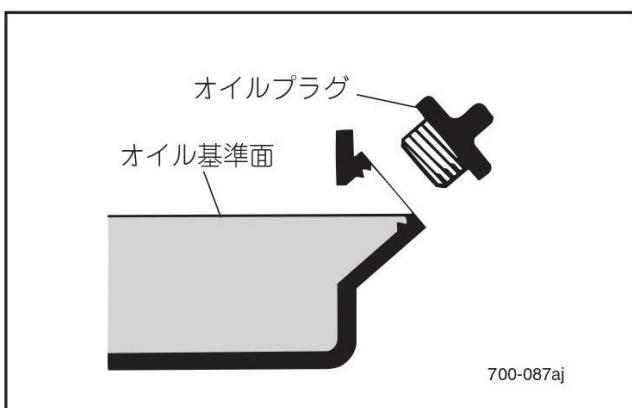
- ボルト①を弛めて、カバー②を取り外します。



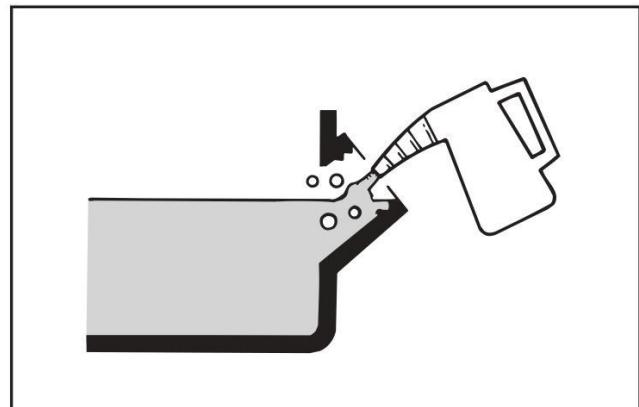
- チューブを外してから
オイルプラグ①を外します。



- エンジンオイルがオイル基準面(注入口の口元)まであるか点検します。



- エンジンオイルが基準面(注入口の口元)より少ない場合は、エンジンオイルを注入口の口元まで給油します。



▲注 意

エンジンオイルを基準面以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要 点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- エンジンオイルを規定量入れないとエンジンは始動しません。

- オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。
- カバーを取り付けます。

● その他の点検

P30 を参照してください。

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

▲警 告

- エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。
ヤケドにご注意ください。
- 排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。
- 異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身または(株)ジェーピージェネレーターズで必ず整備を行ってください。

▲注 意

事故や故障の原因になりますので、始業点検・定期点検を必ず実施してください。

● 始業点検

お客様が発電機をご使用するたびに点検を行ってください。

点検箇所に異状がある場合は、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズで点検・整備をお受けください。

● 定期点検（有料）

お客様のお申しつけにより、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズが実施します。

お客様の責任で必ず点検を受けてください。

対象部品	点検項目	始業点検	6ヶ月毎または100時間運転毎	12ヶ月毎または300時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○ (*1)	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認	○		
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エアクリーナ	点検、清掃		○ (*2)	
マフラーワイヤネット	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナ	清掃			○
ブリーザパイプ	亀裂、損傷の確認			○
シリンダーへッド部	カーボンの除去			★
バルブクリアランス	点検			★
リコイルスタータ	損傷の確認			★
エンジン回転	調整			★
本体各部	各部のゆるみ確認			★
前日の作業で異状が認められた箇所		○		

*1……初回は1ヶ月目または20時間運転時に実施してください。

*2……ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

★……この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズへお申し付けください。

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

● 定期運転

1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

● 定期交換

燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため、3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

▲警 告

- 本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。
- お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズへ作業を依頼してください。

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

商品の定期点検および整備に関しては、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズにご遠慮なくご用命ください。

【ご注意】

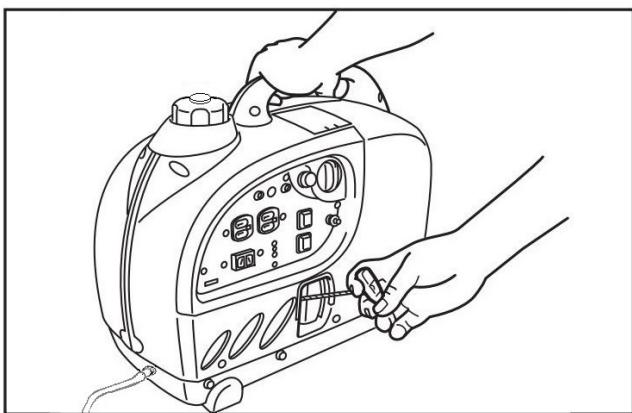
1. 整備は(株)ジェーピージェネレーターズへのお持ち込み及び郵送を原則とします。
2. やむを得ず現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期など休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

● エンジンオイルの交換

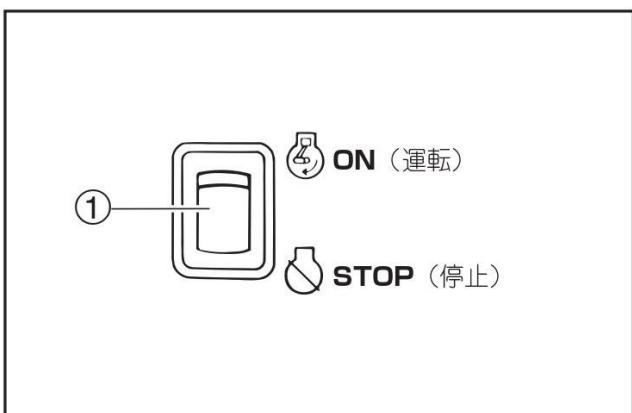
▲警 告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、（株）ジェーピージェネレーターズへご相談ください。

1. エンジンを始動し、2～3分暖機運転します。



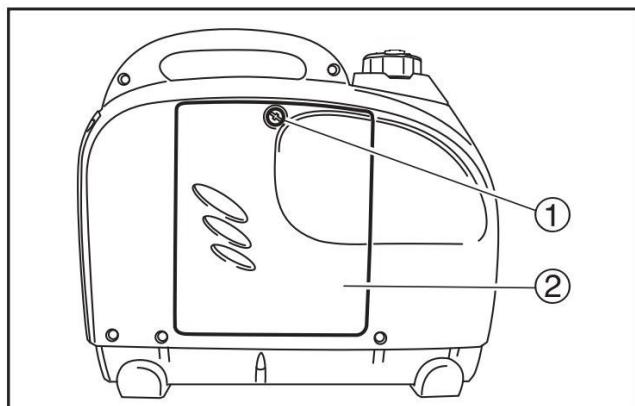
2. エンジンスイッチ①をSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



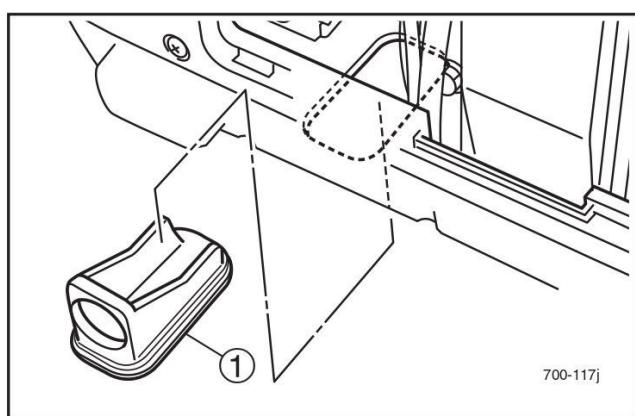
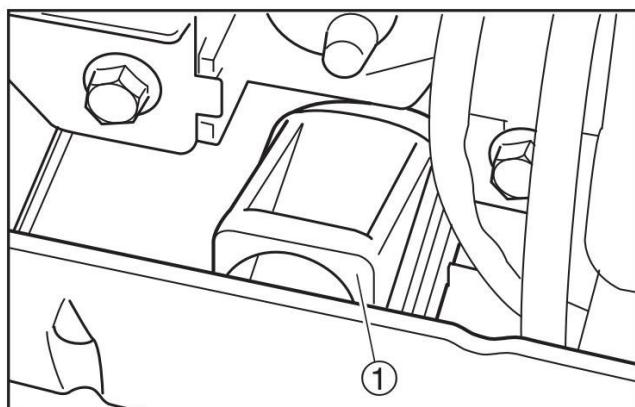
▲警 告

エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

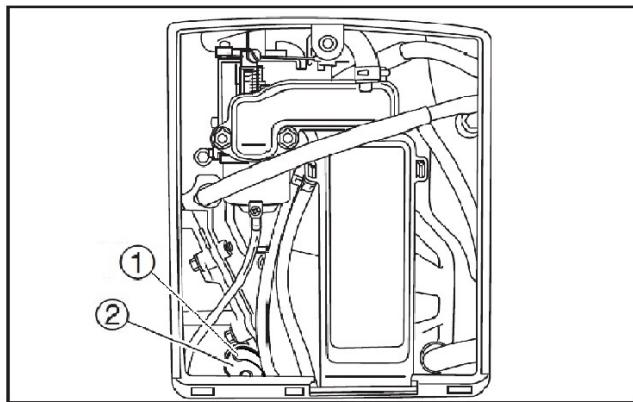
3. ボルト①を弛めて、カバー②を取り外します。



4. オイルフィラ①を下方に押して取り外します。



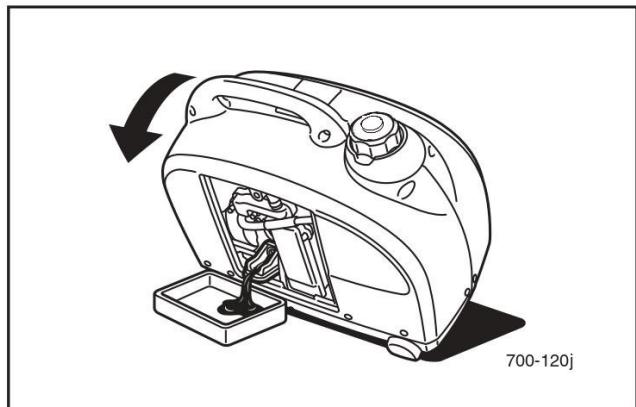
5. チューブ①を外してから
オイルプラグ②を外します。



要点

排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意してください。

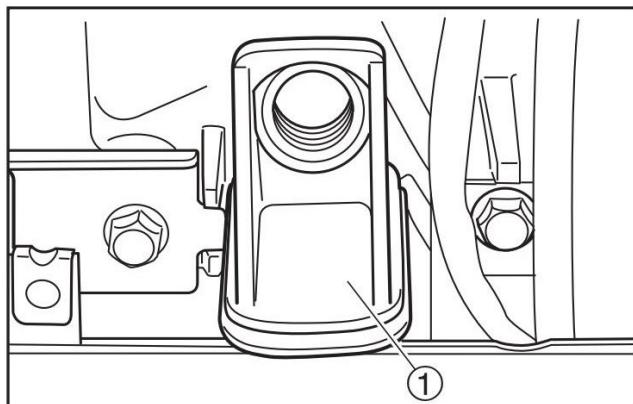
7. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。



要点

初回は 20 時間目、その後は 100 時間毎に交換してください。

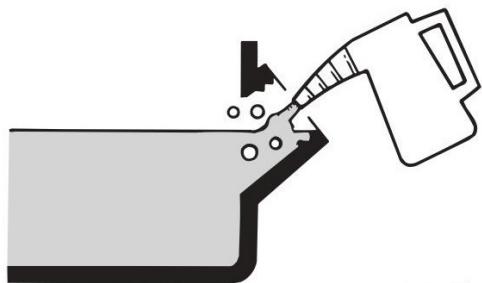
6. オイルフィラ ① をエンジンオイル注入口に取り付けます。



- 新しいエンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。

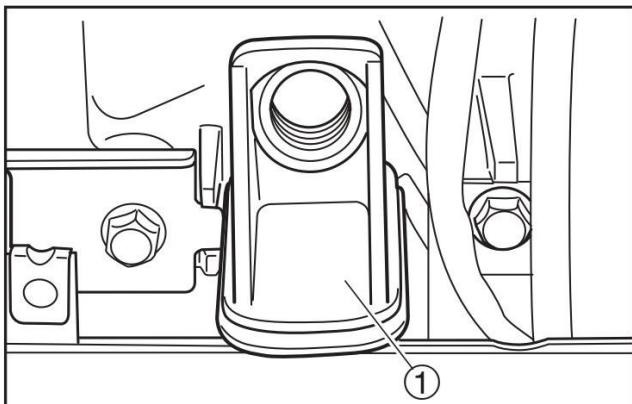
推奨オイル：JPG ZERO
4ストロークガソリンエンジンオイル
(SAE10W-30 もしくは10W-40)
API分類 SE級以上

エンジンオイル規定量：
メインオイルタンク：320mL
サブオイルタンク：620mL

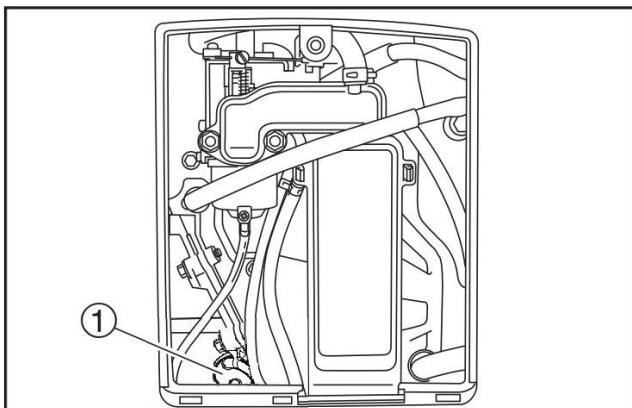


700-006j

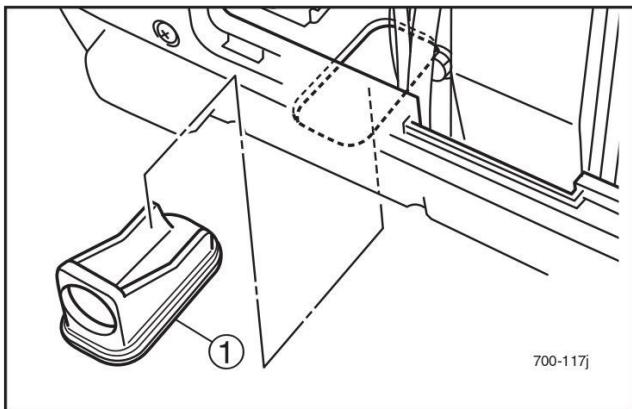
- オイルフィラ①を外します。



- オイルプラグ①を締め付けます。



- 外したオイルフィラ①のオイルをふき取り、本体底板にはめ込みます。



700-117j

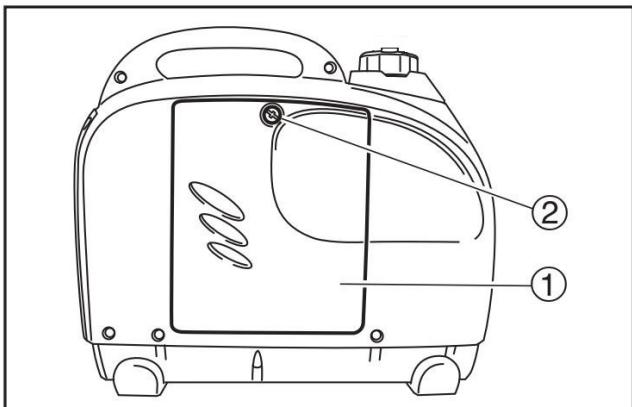
▲注意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

12. カバー①を取り付けて、ボルト②を締め付けます。



● スパークプラグの点検と清掃

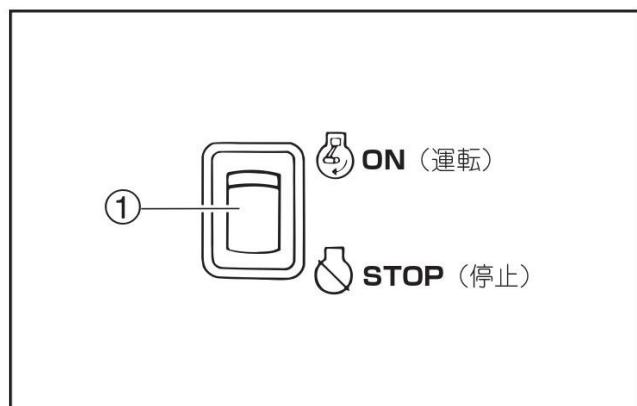
スパークプラグは、点検が簡単な重要な部品です。

スパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

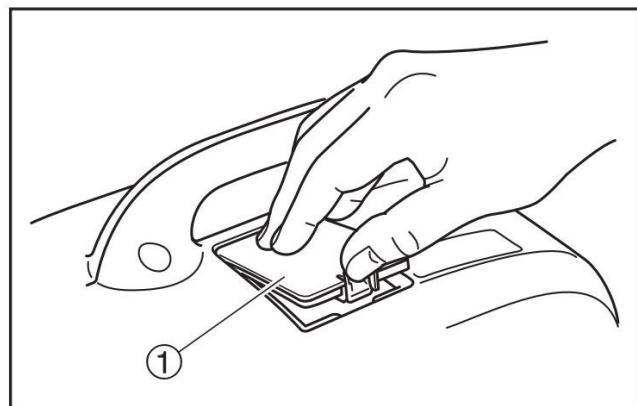
▲警 告

エンジン停止直後は、スパークプラグやエンジン本体が熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。

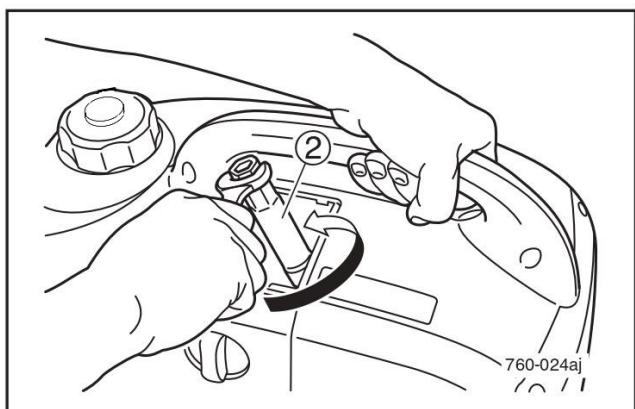
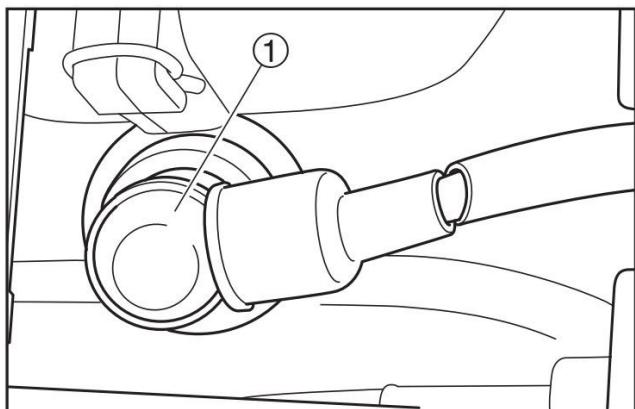
1. エンジンスイッチ①をSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. スパークプラグカバー①を取り外します。



- スパークプラグキャップ①を取り外し、同梱の工具②を使用してスパークプラグを外します。



▲警告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。

碍子が損傷すると、電気がもれて火災などを誘発するおそれがあります。

要点

スパークプラグを取り外すとき、スパークプラグを発電機の内部に落とさないよう注意してください。

- スパークプラグの焼け具合を点検します。

通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。

- 電極付近の汚れ（カーボン）をワイヤブラシで落とします。

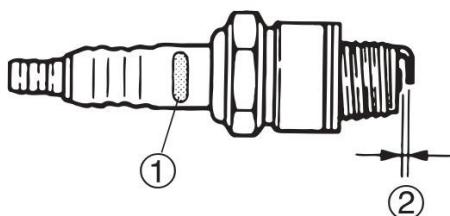
- スパークプラグ認識番号①とスパークプラグギャップ②を点検します。

スパークプラグ認識番号：

NGK CR4HSB

スパークプラグギャップ：

0.6 ~ 0.7 mm



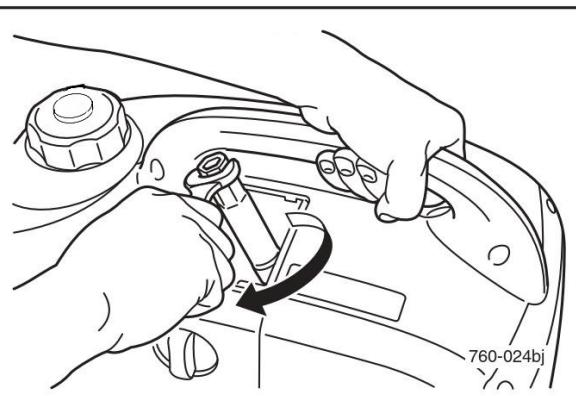
①スパークプラグ認識番号
②スパークプラグギャップ

- スパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

スパークプラグ

規定トルク：

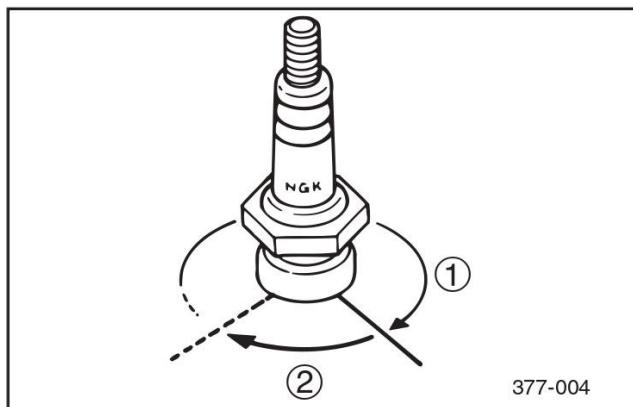
18N·m (1.8kgf·m)



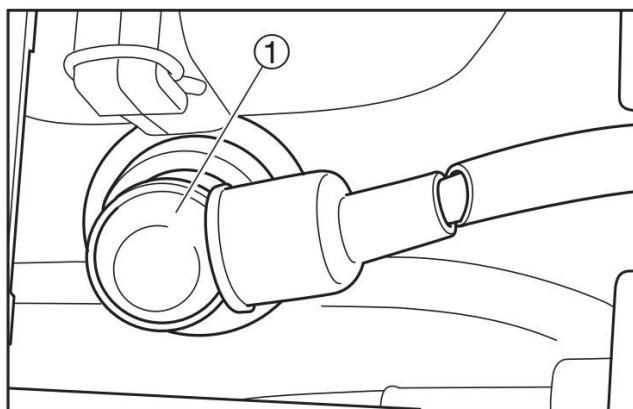
要 点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっぱいに締め込んだ後①、プラグレンチを使って $1/4 \sim 1/2$ 回転②更に締め込んでください。

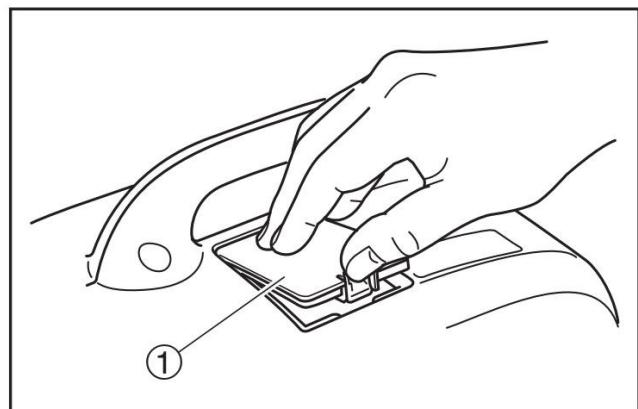
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規のトルクで締めてください。



8. スパークプラグキャップ①を取り付けます。



9. スパークプラグカバー①を取り付けます。



● エアクリーナエレメントの清掃

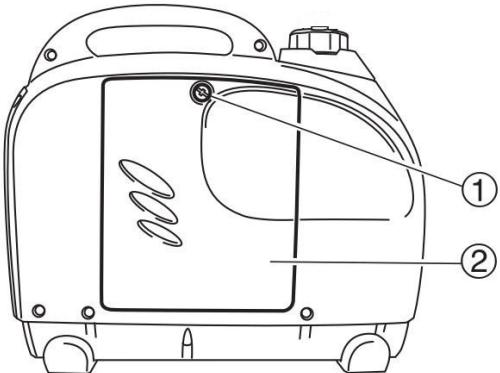
要 点

ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

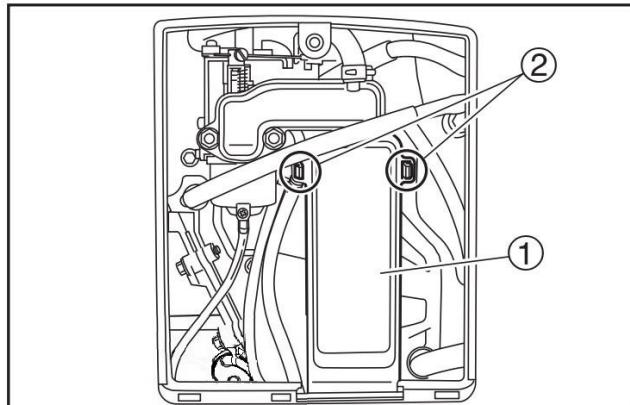
- エンジンスイッチ①をSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



- ボルト①を弛めて、カバー②を取り外します。

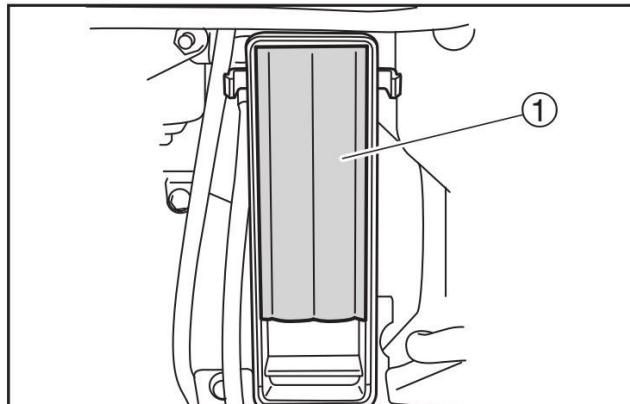


- エアクリーナカバー①を固定しているクリップ②を外します。



- エアクリーナカバーを外します。

- エレメント①を外します。

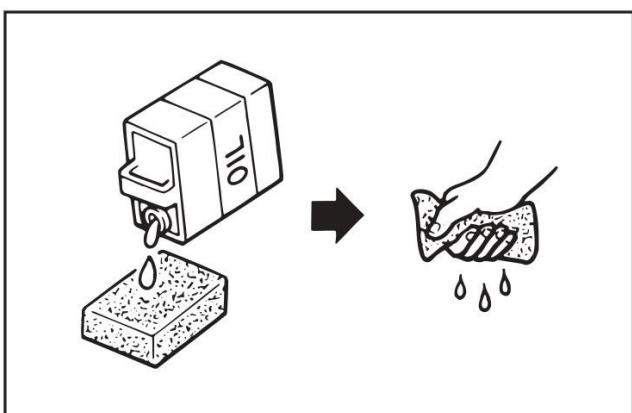


- エレメントをきれいな白灯油で洗浄します。

△警 告

- タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、販売店また(株)ジェーピージェネレーターズへご相談ください。

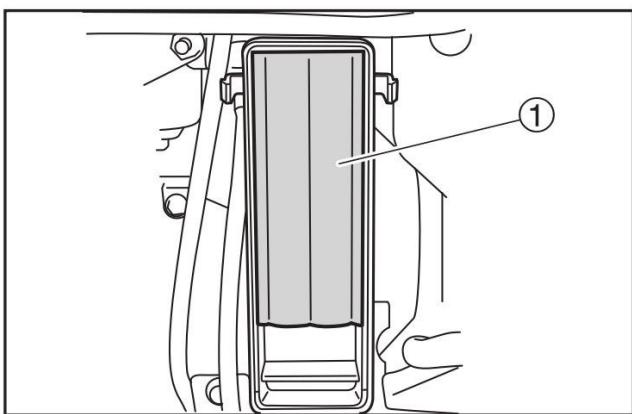
- エレメントをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除きます。



▲注意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

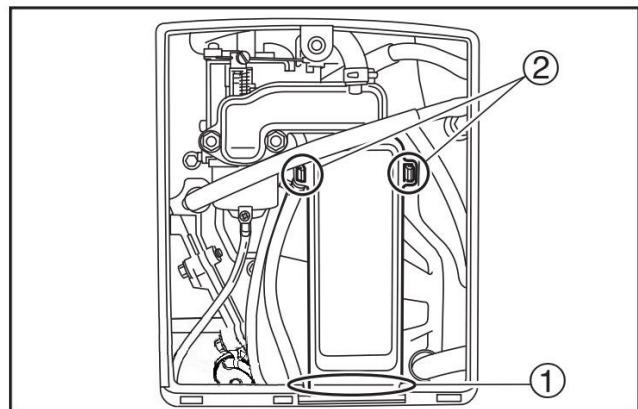
8. エレメント①をエアクリーナ本体にはめ込みます。



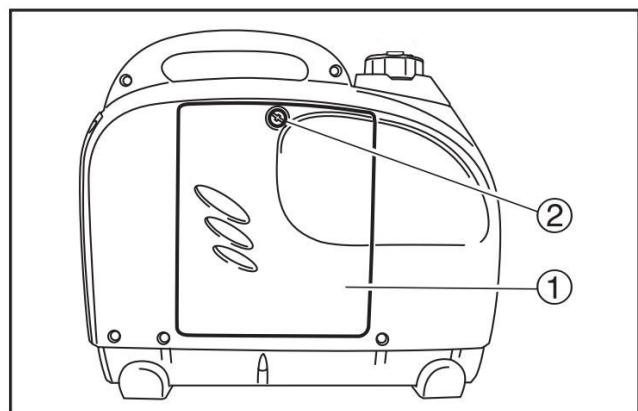
▲注意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

9. エアクリーナカバー突起部①を溝にはめ込み、クリップ②を取り付けます。



10. カバー①を取り付けて、ボルト②を締め付けます。

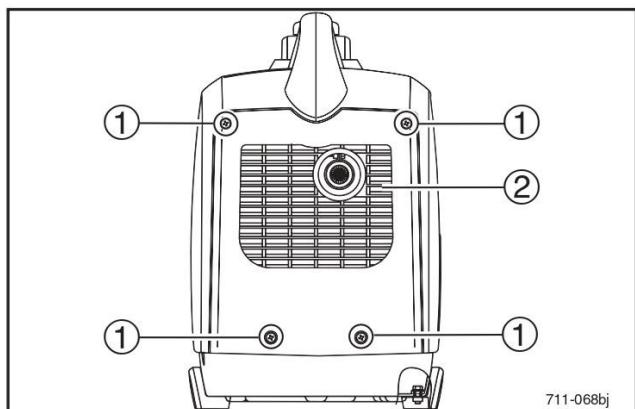


- マフラワイヤネットの清掃

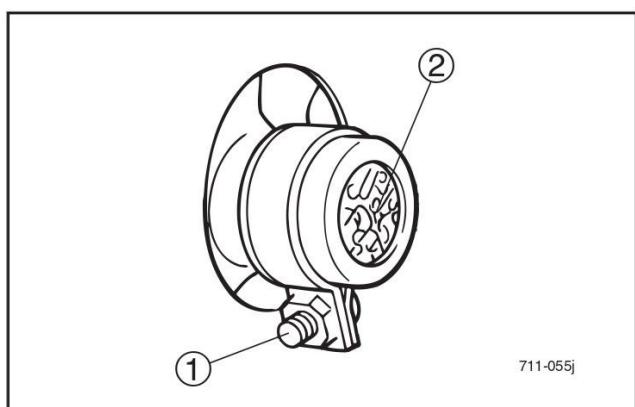
▲警 告

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラ、エキゾーストパイプなどが熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。点検や整備は、充分にエンジン本体やマフラ、エキゾーストパイプなどが冷えてから行ってください。

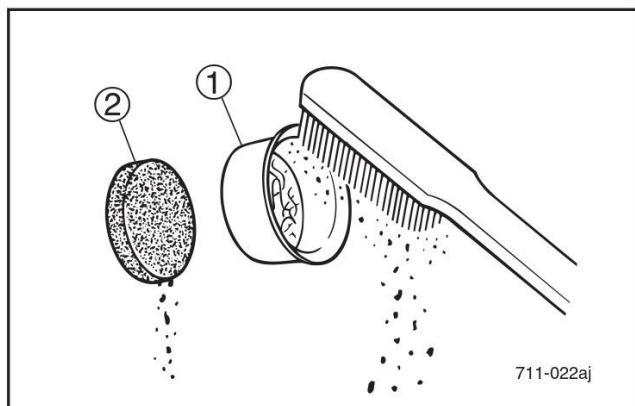
- エンジンスイッチを STOP（停止）にしてエンジンを停止します。
- ボルト①をゆるめて、カバー②を取り外します。



- ボルト①をゆるめてマフラキャップとマフラワイヤネット②を外します。



- ワイヤブラシを利用してマフラキャップ①とマフラワイヤネット②の汚れを取り除きます。



- マフラワイヤネットとマフラキャップを取り付けてボルトを締め付けます。
- カバーを取り付けてボルトを締め付けます。

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取り扱いの不慣れや不充分な点検に起因しています。故障が生じたときは、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズにご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選び、その想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態で販売店または(株)ジェーピージェネレーターズに連絡し、専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている 燃料（自動車用レギュラーガソリン）を補給する。

燃料パイプが目詰まりしている 燃料パイプを清掃する。

もしくは、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズに相談する。

燃料コックに異物が混入している 燃料コックを清掃する。

もしくは、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズに相談する。

キャブレタが目詰まりしている キャブレタを清掃する。

もしくは、販売店または(株)ジェーピージェネレーターズに相談する。

燃料給油キャップつまみが閉じている 燃料給油キャップつまみを左方向に1回転回す。

2. 電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている スパークプラグを乾燥させて清掃する。

スパークプラグにカーボンが

付着している カーボンを除去する。

点火系統が不良 販売店または(株)ジェーピージェネレーターズに相談する。

3. 圧縮系統（圧縮不足、漏れ）

販売店または(株)ジェーピージェネレーターズに相談する。

4. 潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタートハンドルを引くと

オイル警告ランプが点灯する エンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで補給する。

● 電気が出ない

交流過電流保護装置が作動している エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にして一旦エンジンを停止し、その後再始動する。

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

▲警 告

- 燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。

▲注 意

発電機の上に重いものを置かないでください。

要 点

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

● 保管

使用後、または定期運転後次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1～10の作業を行って保管し、次に使用するときに備えてください。

▲注意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。

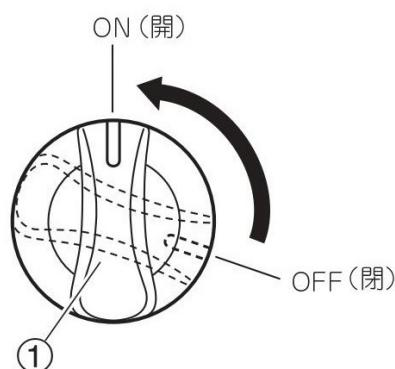
要点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンスイッチをON（運転）にします。

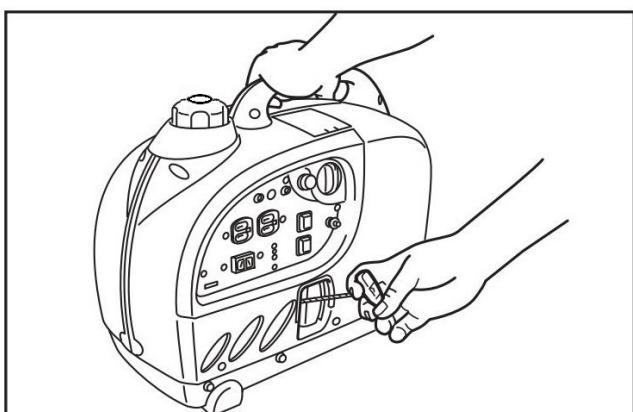


2. 燃料コック①をON（開）にします。



3. エンジンを始動します。

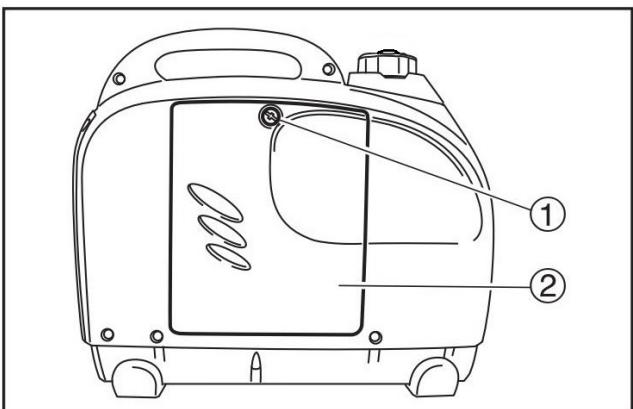
約20分前後でエンジンは「ガス欠状態」で停止します。



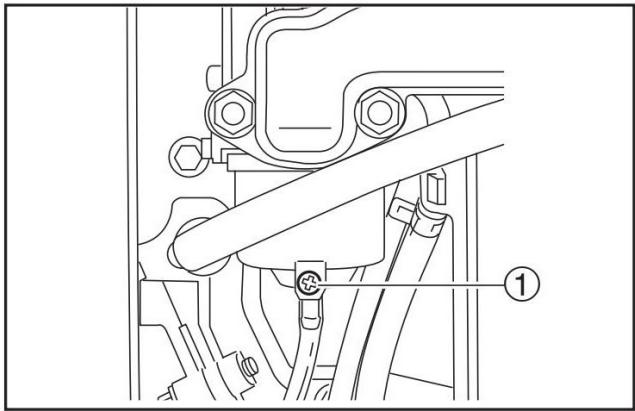
要点

- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転）
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

4. ボルト①を弛めて、カバー②を取り外します。



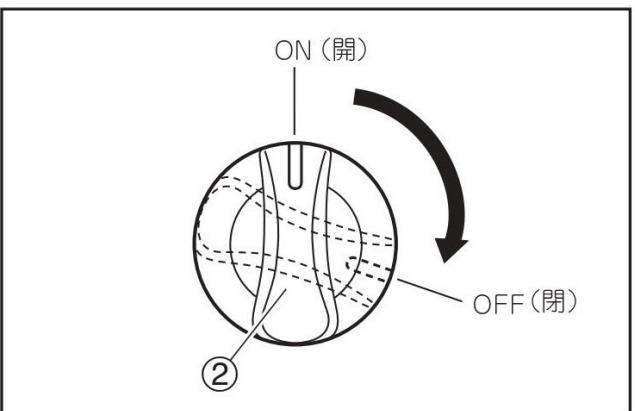
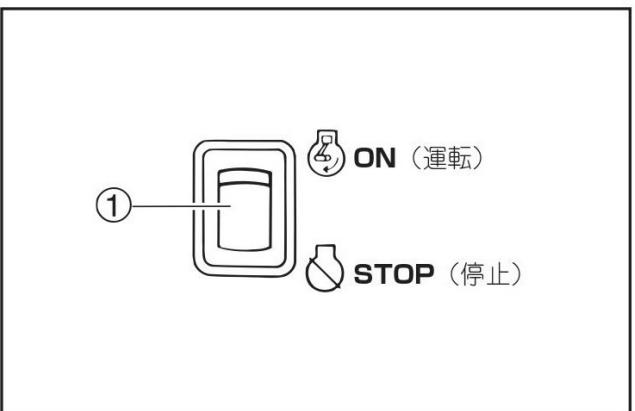
5. キャブレタのドレンスクリュ①を⊕ドライバーで弛めて燃料を抜きます。



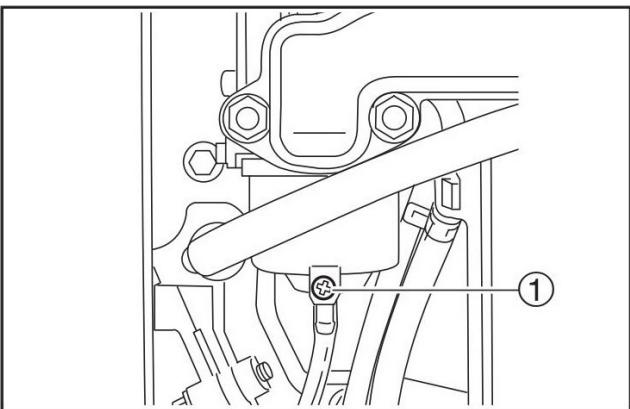
▲警 告

こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

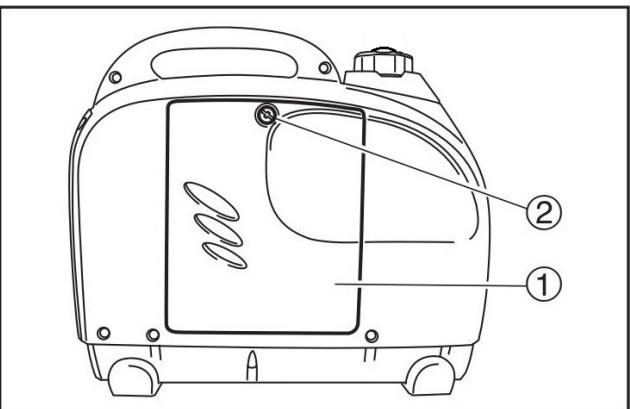
6. エンジンスイッチ①をSTOP（停止）、燃料コック②をOFF（閉）にします。



7. ドレンスクリュ①を締め付けます。



8. カバー①を取り付けて、ボルト②を締め付けます。



9. ゆるみがあれば各ボルト・ナット・スクリュを増し締めします。



10. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に
保管します。



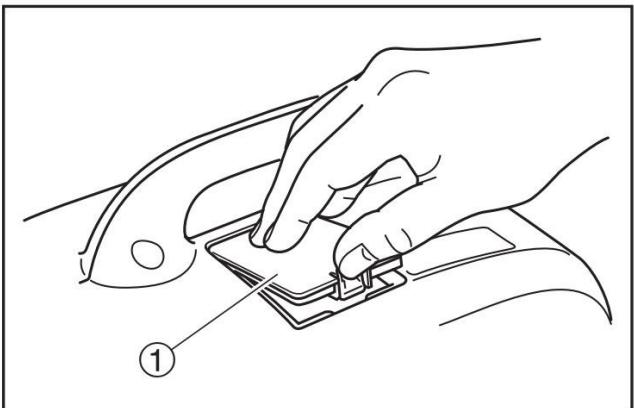
▲注意

火災のおそれがありますので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部が充分に冷えてから行ってください。

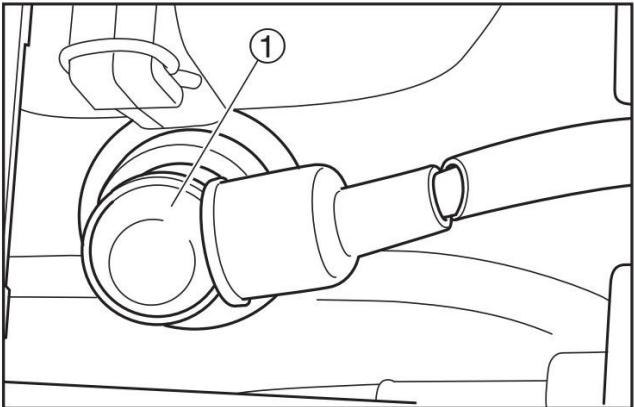
●格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次に使用するときに備えてください。

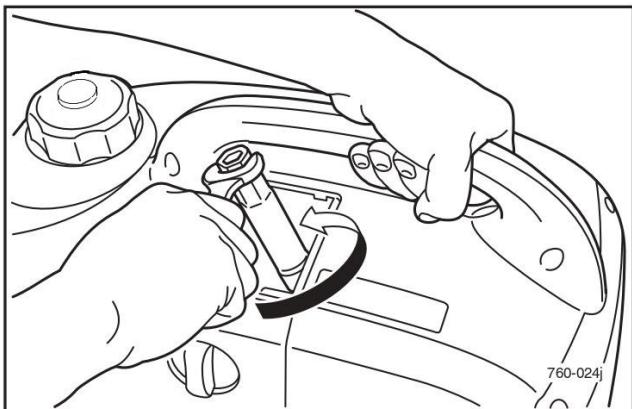
1. 「●保管」の1～10の作業を行います。
2. スパークプラグカバー①を取り外します。



3. スパークプラグキャップ①を外します。



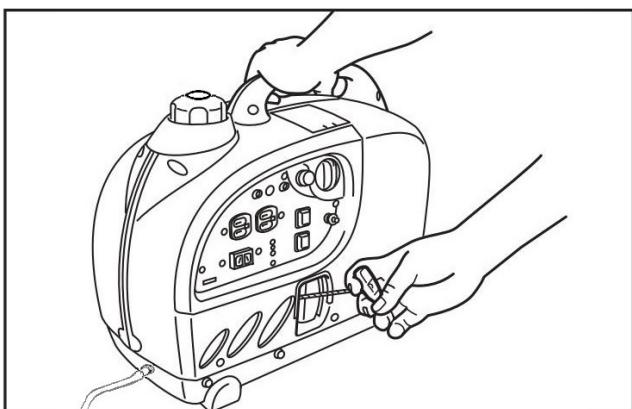
4. スパークプラグを外し、プラグ孔よりエンジンオイルを3～5mL 純油します。



8. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に格納します。



5. スタータロープを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付けます。
6. スタータロープを引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。



7. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



名称	JPG900	
形式	多極回転界磁形	
電圧調整方式	インバータ式	
励磁方式	自己励磁式	
力率	1.0	
電圧変動率（整定）	3%以下	
周波数変動率（整定）	0.1%以下	
発電機	定格周波数	50Hz/60Hz (切替式)
	定格出力	0.9kVA (900VA)
	定格電圧	100V
	定格電流	9.0A
装備	定格電圧	12V
	定格電流	8A
	駆動方式	エンジン直結
	交流コンセント	15A × 2 個
エンジン	交流過電流保護装置	電子式
	直流コンセント	10A × 1 個
	直流過電流保護装置	直流プロテクタ
	エンジン種類	空冷 4ストロークガソリンエンジン
エンジン	調速機形式	電子式
	冷却方式	強制空冷式
	点火方式	TCI
	スパークプラグ	NGK · CR4HSB
	プラグギャップ	0.6 ~ 0.7mm
	エアクリーナ方式	半湿式 (ウレタンフォーム)
	総排気量	50mL (50cm³)
	使用燃料	無鉛ガソリン (自動車用レギュラーガソリン)
	潤滑方式	強制飛沫式
	エンジンオイル	4ストロークガソリンエンジンオイル (SAE 10W-30 もしくは 10W-40 API 分類 SE 級以上)
バッテリ	エンジンオイル規定量	メイン320mL サブ620mL
	始動方式	リコイル式
	燃料タンク容量	19.5L/缶 (材質 SUS304) ※タンクの所有数により異なる
全般	連続運転時間	約185~63.9 時間 (1/4 負荷~定格負荷) *1
	乾燥重量	12.7kg
	全長×全幅×全高	456 × 240 × 380mm
	騒音レベル (7m)	47 ~ 57dB (A) (1/4 負荷~定格負荷) *1
バッテリ	無	
	無	

● この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

*1 : エコノミースイッチ ON 時

メモ



命を繋ぐ灯りを護る